

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

目次

川崎市社会福祉協議会

	頁
基本方針・重点事業	1
1 法人運営事業	3
2 調査・研究事業	3
3 研修事業	4
4 企画・広報事業	4
5 区社協推進事業	5
6 助成事業	5
7 部会・委員会事業	6
8 福祉基金運営事業	11
9 資金貸付事業	11
10 共同募金事業	11
11 受託事業	12
12 ボランティア活動振興センター事業	15
13 あんしんセンター事業	17
14 地域生活支援SOSかわさき事業	20
15 総合研修センター管理経営事業	21
16 居宅介護等事業	22
17 老人いこいの家管理経営事業	23
18 老人福祉センター管理経営事業	23
19 公益事業	24
20 民生委員児童委員活動及び 川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働	26
21 災害活動関連事業	26
22 その他	27
川崎市川崎区社会福祉協議会	29
川崎市幸区社会福祉協議会	35
川崎市中原区社会福祉協議会	44
川崎市高津区社会福祉協議会	50
川崎市宮前区社会福祉協議会	60
川崎市多摩区社会福祉協議会	70
川崎市麻生区社会福祉協議会	81

令和4年度 事業報告

基本方針

全世界で蔓延している新型コロナウイルス感染症に加え、国際秩序の不安定化、資源価格や消費物価の高騰などにより私たちの日常生活は大きな影響を受けています。

国では医療・介護・保育・障害等における全世代対応の持続可能な社会保障制度を構築するため、診療報酬・介護サービス等報酬・教育・保育に要する費用など公的価格の在り方の検討を進めています。併せて、少子化や生活困窮の影響を受けやすい子どもへの対策における司令塔として、こども家庭庁が設立されました。

地域においては、休職や失業による生活困窮、孤立・孤独の問題、自殺死亡率の増加など、深刻な課題がある一方、新型コロナウイルス感染症の5類移行により活況を取り戻そうとする社会の動きの中で、地域住民による支え合いの活動に一層の期待が寄せられています。

感染症の影響により生じた生活困窮に対し、令和2年3月から実施した生活福祉資金特例貸付は令和4年9月末をもって終了となり、本会はこの間4万8千件、181億円を超える申請受付を行いました。この事業を通じて明らかとなった生活困窮の実態について、多くの方々に伝えることを目的に「新型コロナ特例貸付から見える～生活困窮のリアル～」を作成しました。

また、令和3年度に引き続き、生活困窮に置かれている方に対し、行政・相談機関を通じて、市民や企業などから寄せられた食糧や日用品などの寄付をお渡しする、市内社会福祉法人との連携事業「食糧支援かわさき」を継続して行うなど、困窮者支援に取り組みました。

経営面においては、社協が果たす役割・使命を常に確認すると同時に、足腰の強い組織経営に向けて新規事業の開拓や新たな受託事業の獲得に努めるなど、地域に根差した活動を継続するための経営基盤の強化を意識して取り組んできました。

以下は、特に重点的に実施した事業です。

◆重点事業◆

1 第5期地域福祉活動推進計画の推進

本会のネットワークを活用し地域住民、関係機関、企業のコーディネートを行い住民主体による生活課題解決にむけた取り組みを支援しました。また、今後の地域ネットワークづくりにつながる取組展開ができるよう、地域資源に関する実態把握調査を川崎市から受託し、実施しました。

本会職員と行政職員との連携会議において、それぞれの事業、取組について意見交換を行い地域課題の解決に向けた連携強化を図りました。

2 組織経営基盤の強化

経営基盤の強化と経営健全化に取り組み、介護保険等事業の経営改善に向け、人件費率の適正化、収益率の向上を目指し、人員配置・事業所体制の見直しを行いました。

食を通じた子ども子育て家庭見守り支援ネットワークづくりを、着実に実施するため、川崎市から川崎区をモデルとする川崎市要支援家庭見守り体制強化事業を受託し実施しました。

また、人生の終わりに向けた支援を行う、終活支援事業をモデル実施しました。

併せて、全ての事業・予算化の精査と財源確保、人材育成計画の推進、効率的な組織運営方法などに取り組みました。

3 想定される災害に備えた地域防災力の向上

災害に対する取り組みとしては、令和4年9月、台風15号の影響による豪雨被害のあった静岡県に、災害ボランティアセンターの運営・支援を行うため、延べ11名の社協職員を派遣しました。

今後、想定される大規模災害に機動的な対応が図れ、関係機関と連携、協働による支援活動が展開できるよう、災害ボランティアセンター運営訓練を実施すると同時に、市民に対し災害ボランティアセンターの理解を深めるための講座を実施し、地域防災力の向上に努めました。

事業報告の内容

1 法人運営事業【335,110千円】

【サービス区分事業活動支出 332,978千円】

【サービス区分施設整備等支出 1,044千円】

【共同募金配分金 1,088千円】

(1) 三役会、理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催

- ア 三役会の開催 4回（6月9日、10月11日、12月20日、3月10日）
- イ 理事会の開催 5回（6月14日、10月26日※決議の省略、12月27日、1月13日、3月16日）
- ウ 評議員会の開催 4回（6月29日、11月28日※決議の省略、1月10日、3月28日）
- エ 評議員選任・解任委員会の開催 3回（6月21日※決議の省略、11月2日※決議の省略、12月27日）

(2) 監事会の開催、会計監査人監査の実施

- ア 監事会の開催 1回（5月31日）
- イ 会計監査人（太陽有限責任監査法人）による監査の実施
- ウ 会計監査人による監査報告の実施
- エ 会計監査人による監査計画の説明（10月21日）

(3) 会員の増強 令和4年度新規入会会員

- ア 正会員 4（第6種3施設、第11種1団体）
- イ 協賛会員 0

	R4実績	R3実績
正会員数	499	499
協賛会員数	14	15

(4) 苦情解決の実施と推進

- ア 苦情受付件数 0件

2 調査・研究事業【6,217千円】

【サービス区分事業活動支出 6,069千円】

【共同募金配分金 148千円】

(1) 地域包括ケアシステムや地域福祉の推進

- ア 第5期地域福祉活動推進計画の推進
第5期地域福祉活動推進計画推進委員会の開催 1回（6月6日）
- イ 地域課題解決に向けた地域ネットワークづくりの調査及び企画業務報告書及びリーフレットを作成し、行政に提出

ウ 今後の川崎市社会福祉協議会の取組と川崎市との連携に関する検討会

(ア) 準備会 2回(6月6日、6月30日)

(イ) 検討会議 4回(9月7日、10月19日、11月22日、1月13日)

(ウ) 川崎市社協各区社協、各区役所職員との意見交換会 1回(3月23日)

(2) 人材育成計画の推進

ア 人材育成計画推進員会議の開催 3回(8月2日、12月23日、2月22日)

3 研修事業 【708千円】

【サービス区分事業活動支出 37千円】

【共同募金配分金 671千円】

(1) 職員研修の実施

	R4実績	R3実績
研修数 (件)	10	10
受講人数 (延べ)	265	395

ア 新規採用職員研修 4回(4月4日、6月2日、9月2日、12月2日)

イ 階層別(課長・主幹)研修 2回(2月22日、3月14日)

ウ 職員基礎研修 2回(6月28日、3月~4月※各職場での動画視聴研修)

(2) 各種研修への参加・職員資格取得補助

ア 全社協、県社協、その他の研修への参加 延べ8名

イ 職員の資格取得の補助 延べ25名

4 企画・広報事業 【5,594千円】

【サービス区分事業活動支出 1,642千円】

【共同募金配分金 3,952千円】

(1) 第58回川崎市社会福祉大会の開催

ア 実行委員会 3回(7月11日、9月13日、10月25日)

イ 社会福祉大会(10月25日) 参加者400名

(2) 広報紙「川崎の社会福祉」の発行

ア 広報紙「川崎の社会福祉」 年4回(596号~599号)

各12,000部発行

(3) 広報戦略に関する検討会の開催

(4月25日、5月11日、5月23日、6月15日、7月21日、8月19日)

(4) ホームページの運用と管理

ア ホームページ

- (ア) 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 (<https://www.csw-kawasaki.or.jp/>)
- (イ) 川崎市総合福祉センター(エポックなかはら) (<https://sfc-kawasaki.jp/>)
- (ウ) かわさき福祉情報サイトふくみみ (<https://k-fukumimi.com/>)
- (エ) 総合研修センター (<https://www.kensyu-c.jp/>)

イ フェイスブック、ツイッター、LINE

- (ア) 川崎市社会福祉協議会(災害情報専用)フェイスブック、ツイッター
- (イ) かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック
- (ウ) 総合研修センター フェイスブック
- (エ) ShareSmileかわさき ツイッター
- (オ) 川崎市社会福祉協議会LINE公式アカウント

5 区社協推進事業【176,839千円】

【サービス区分事業活動支出 176,652千円】

【共同募金配分金 187千円】

(1) 区社協事業との連携・協働

ア 川崎市社協・区社協間のグループウェア活用等による情報提供・情報交換

イ 地域課長会議 13回(4月14日、5月12日、6月8日、7月6日、8月10日、9月6日、10月13日、11月10日、12月8日、12月28日、1月10日、2月9日、3月9日)

ウ 経理担当者会議の開催 3回(4月20日、7月27日、1月27日)

エ 区社協地域課職員研修の開催 4回(4月13日、4月27日、7月22日、10月19日)

(2) 地区・区社協役員等の研修会の開催(地域部会事業)

ア 地域部会トップセミナー 1回(11月30日)

イ 地区社協役員等研修会 1回(2月17日)

6 助成事業【9,928千円】

【サービス区分事業活動支出 9,928千円】

(1) 社会を明るくする運動への協力

第72回川崎市社会を明るくする運動に助成 助成額20,000円

(2) 民間老人いこいの家運営費助成事業

ア 久地第二老人いこいの家に助成 助成額350,000円

イ 二子老人いこいの家に助成 助成額350,000円

(3) 民間社会福祉施設従事者福利厚生費助成事業

- 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会を開催し、本会会員の民間社会福祉施設に対し助成
- ア 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会 4回（6月2日、9月6日、11月18日、3月22日）
- イ 福利厚生費の助成 98法人・施設（7,046名） 計 1,899,200円

(4) ふれあい活動支援事業の推進

- ア 会食活動に助成 106団体 計 14,665,000円
- イ 配食活動に助成 6団体 計 1,194,000円
- ウ ミニデイサービス活動に助成 10団体 計 2,073,000円
- エ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催（10月28日、1月18日）

(5) 法定外緊急援護事業資金の交付（生活困窮者緊急援護資金）

市内福祉事務所による生活困窮者緊急援護資金事業に交付 総額210,000円

(6) 令和4年度わくわく親子フェスタ

県社協「令和4年度わくわく親子フェスタ」に交付 20,000円

(7) 福祉基金による団体等助成

福祉活動団体に助成 11団体 計2,340,475円

(8) 障害者団体等活動助成金

障害者団体等に助成 9団体 計850,000円

7 部会・委員会事業【6,299千円】

【サービス区分事業活動支出 4,012千円】

【共同募金配分金 2,287千円】

(1) 部会・協議会の開催、交流事業及び研修事業等の実施

ア 地域部会

- (ア) 部会議 2回（6月9日、3月3日）
- (イ) 正副部会長会議 3回（5月17日、8月30日、2月8日）
- (ウ) 地域共生社会実現に向けた地区社協活動運営推進会議 3回（10月20日、12月26日、2月17日） 作業班 3回（9月6日、11月10日、1月10日）
- (エ) 地域部会トップセミナー【再掲】 ⇒5-(3)
- (オ) 地区社協役員等研修会【再掲】 ⇒5-(3)

イ 法人経営者部会

- (ア) 部会議 2回（5月13日、3月1日）
- (イ) 企画委員会 5回（4月25日、10月14日、1月11日、1月31日、2月22日）
- (ウ) 法人経営者部会と市長との意見交換会（2月6日）

- (エ) 研修会 2回 (11月28日、3月1日)
- (オ) 第63回大都市社会福祉施設協議会 (川崎市大会) 要望書提出 (6月1日)
- (カ) 情報提供の実施

ウ 施設部会

- (ア) 部会議 4回 (6月2日、9月6日、11月18日、3月22日)
- (イ) 研修会 3回 (10月28日、3月23日、3月24日)
- (ウ) ふくしの出張講座 14件
- (エ) 第63回大都市社会福祉施設協議会 (川崎市大会) 要望活動
- (オ) 第64回大都市社会福祉施設協議会 (広島市大会) への参加協力
- (カ) その他 (会員施設へ各種研修会や助成金、制度情報等をメール配信)

エ 保育協議会

- (ア) 総会 1回 (5月11日)
- (イ) 代表者委員会 5回 (4月13日、6月8日、8月1日、10月12日、2月7日)
- (ウ) 保育研修会 4回 (5月11日、9月14日、3月13日、3月27日)
- (エ) 第49回川崎市保育まつり (収録・YouTube配信) 市内443園
- (オ) 第40回川崎市保育研究大会 1回 (11月1日～11月30日、オンデマンド配信)
- (カ) 全国・関東ブロック等保育組織関係参加会議等
 - a 全国保育協議会協議員総会 2回 (5月25日、2月17日)
 - b 全国保育組織正副会長会議 1回 (11月21日)
 - c 関東ブロック保育協議会会長会 3回 (5月26日、9月9日、2月20日)
 - d 第62回関東ブロック保育研究大会 1回 (7月1日～7月31日、オンデマンド配信)
 - e 関東ブロック保育事業連絡協議会 1回 (9月8日)
 - f 関東ブロック保育協議会「保育士の専門性を高める研修会」 1回 (3月6日～3月7日)
- (キ) その他 (全保協ニュースや関係各種団体の研修会開催情報、制度情報等をメール配信)

オ 老人福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 6回 (4月20日、6月15日、8月24日、10月19日、12月21日、2月15日)
- (イ) 正副会長等会議 6回 (4月7日、6月3日、8月4日、10月5日、12月9日、2月6日)
- (ウ) 災害プロジェクト委員会 6回 (5月9日、7月20日、8月19日、10月14日、12月13日、1月31日)
 - 災害に関する研修会 1回 (11月28日)
 - 合同訓練 1回 (12月22日)
- (エ) 人材プロジェクト委員会 6回 (5月18日、7月20日、9月21日、11月24日、1月18日、3月15日)
 - ハローワーク説明会 5回 (5月27日、7月8日、9月16日、11月16日、1月18日、3月10日)
 - ハローワーク打合せ 4回 (6月2日、10月5日、1月18日、3月10日)
 - 外国人介護人材に関する打合せ 2回 (6月27日、7月4日)
- (オ) 関東ブロック・首都圏・神奈川県等老人福祉組織関係参加会議等

- a 関東ブロック老人福祉施設連絡協議会代表者会 3回（5月25日、10月12日、2月28日）
- b 第57回関東ブロック老人福祉施設研究総会・第12回山梨県老人福祉施設研究総会合同大会（山梨大会） 1回（9月1日～9月30日、オンデマンド配信）
- c 都道府県指定都市老協・デイ協会長会議 1回（11月24日）
- d 神奈川県社協老人福祉施設協議会正副会長等会議 5回（4月26日、5月31日、6月17日、8月19日、1月17日）
- e 神奈川県社協老人福祉施設協議会総会 2回（6月28日、3月2日）
- f 神奈川県社協老人福祉施設協議会委員会 4回（5月31日、6月28日、9月14日、2月17日）
- g 神奈川県社協老人福祉施設協議会研修会 3回（6月28日、3月2日、3月23日）
- h 第20回かながわ高齢者福祉研究大会 1回（6月30日～7月31日、オンデマンド配信）
実行委員会 2回（4月26日、9月14日）
- i 第21回かながわ高齢者福祉研究大会
実行委員会 3回（10月25日、11月29日、2月17日）
研究発表事前説明会・プレゼンテーション研修会 1回（3月29日）
- j 神奈川県社協老人福祉施設協議会課題別プロジェクト会議
介護報酬改定対応プロジェクト会議 3回（6月8日、11月9日、1月18日）
人材確保対応プロジェクト会議 1回（11月16日）
災害対応プロジェクト会議・研修会 2回（11月14日、3月2日）
- (カ) 令和3年度決算に基づく特別養護老人ホーム収支状況調査
調査期間：7月13日～10月14日
回答施設数：39施設（調査対象：56施設）

カ 障害者福祉施設協議会

- (ア) 施設長会 4回（5月19日、8月18日、10月7日、2月10日）
- (イ) 正副会長会議 4回（5月19日、7月20日、10月7日、1月19日）
- (ウ) 障害福祉施設関係者等研修会 1回（12月14日）
- (エ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会
 - a 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回（8月31日）
 - b プレ交流会 2回（8月25日、9月7日）

キ 児童・母子福祉施設協議会

- (ア) 総会・施設長会 4回（5月25日、7月1日、9月28日、1月27日）
- (イ) 正副会長会議 1回（12月7日）
- (ウ) 川崎市民生委員児童委員協議会との意見交換会 1回（7月15日）
- (エ) 職員交流会
 - a 実行委員会 5回（9月2日、9月20日、10月7日、11月9日、12月12日）
 - b 職員交流会 4回（11月17日、11月21日、11月25日、12月2日）
- (オ) 研究発表会
 - a 事前発表会 1回（2月13日）
 - b 研究発表会 1回（2月28日）

(カ) オレンジリボン運動

(キ) 勉強会 1回 (1月15日)

ク 川崎市民間社会福祉施設連絡協議会【再掲】 ⇒6-(3)-ア

ケ 民生委員児童委員部会

(ア) 部会議 3回 (5月24日、12月15日※第7種会員会議と併せて開催、
3月22日)

(イ) 代表者会議 6回 (5月12日、7月1日、10月3日、12月15日、
1月16日、3月6日)

(ウ) 研修会 新任民生委員児童委員研修会 1回 (2月13日)

コ 保護司部会

(ア) 部会議 1回 (5月26日)

(イ) 代表者会議 2回 (8月26日、3月16日)

(ウ) 研修会

保護司部会研修会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演のDVDを作成し各区に送付

サ 障害者団体部会

(ア) 団体部会 4回 (5月24日、8月2日、11月29日、2月7日)

(イ) 正副部会長会議 4回 (5月17日、7月27日、11月29日、2月7日)

(ウ) 障害者団体リーダー研修 2回 (10月12日、3月14日)

シ ボランティア団体部会

(ア) 部会議 4回 (5月24日、7月28日、9月21日、2月8日)

(イ) 研修会 (12月4日)「災害ボランティアセンターを知ろう、学ぼう」

(2) 各種委員会、種別会員会議の開催

ア 種別会員会議

(ア) 第6種会員会議 (6月2日) 施設部会と併せて開催

(3) 全国、関東ブロック、県、指定都市で開催される関係会議への参加、協力

ア 都道府県・指定都市社会福祉協議会地域福祉推進担当部・課・所長会議 (5月13日※オンライン)

イ 都道府県・指定都市社会福祉協議会常務理事・事務局長会議 (1月27日)

ウ 指定都市社会福祉協議会・民生委員児童委員連盟連絡協議会 (8月29日※書面審議)

エ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会総務部課長会議 (7月27日※オンライン)

オ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会常務理事・事務局長会議
(8月30日※オンライン)

カ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当・部課
長会議 (8月2日※オンライン)

キ 関東甲信越静岡ブロック都県・指定都市社会福祉協議会組織・ボランティア業務担当者研究
協議会 (3月17日※オンライン)

ク 関東ブロック都県・指定都市社会福祉協議会生活福祉資金担当職員研究協議会 1回
(2月16日※オンライン)

- ケ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会幹事会 3回
(5月24日※オンライン、2月14日、3月1日※オンライン)
- コ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会幹事会 2回
(5月16日※オンライン、2月13日)
- サ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会幹事打ち合わせ会 1回(3月1日※オンライン)
- シ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会会長会全体会 1回(7月29日※書面審議)
- ス 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会事務局長会全体会 2回
(6月21日※オンライン、2月22日※オンライン)
- セ 神奈川県社会福祉協議会市町村社協部会常務理事・事務局長会議 1回
(12月22日※オンライン)

(4) 第63回大都市社会福祉施設協議会(川崎市大会) 要望活動(6月1日)

要望先(衆議院、参議院、内閣府、内閣官房、厚生労働省、全国社会福祉協議会)

※上記以外については、後日郵送にて要望書提出

(5) 第64回大都市社会福祉施設協議会(広島市大会)への参加協力

運営協議会 2回(9月20日、11月29日)

準備会 1回(12月17日)

(6) 第49回川崎市保育まつり(市内443園)

映像配布(DVD)及びYouTube配信による実施

(7) 障害者の日キャンペーン事業

- ア 障害者週間街頭キャンペーン事前準備 11月29日
- イ かわさきFM出演 キャンペーン広報 1回 11月30日
- ウ 障害者週間啓発用ポスター・パネル掲示
(ア) JR南武線主要5駅構内 12月1日~12月8日
(イ) 総合福祉センター内 12月3日~12月9日
- エ 障害者週間街頭キャンペーン 12月3日
川崎駅・武蔵溝の口駅、新百合ヶ丘駅で団体紹介リーフレット入りオリジナルデザイン
ティッシュを配布 3,600個

(8) 子ども虐待防止運動事業(オレンジリボン運動)

- ア 実行委員会 5回(5月25日、6月20日、8月26日、10月4日、12月7日)
- イ ランナー・中継担当役員会議 4回(6月20日、8月26日、10月4日、12月7日)
- ウ 啓発担当役員会議 6回(6月20日、7月20日、8月26日、9月22日、
10月4日、12月7日)
- エ オレンジリボンたすきリレー 1回(10月23日)
- オ 啓発活動
(ア) オリジナルチラシ・ポスターの配布

- (イ) オリジナルデザイン缶バッチの配布
- (ウ) 川崎市内スポーツチームを通じての広報
- (エ) ホームページ、SNSを活用した広報
- (オ) 他機関と連携した広報啓発

8 福祉基金運営事業【1, 829千円】

【寄附・利息等収入 1, 829千円】

(1) 福祉基金の運営

福祉基金運営委員会 2回（11月21日、3月24日）

(2) 令和4年度福祉基金状況

ア 寄付金額総額	200,000円	(1件)
(令和3年度)	269,042円	(6件)
イ 年度末基金残高	336,487,040円	
(令和3年度)	336,998,615円	

(3) 福祉基金による団体等助成【再掲】 ⇒6-(7)

9 資金貸付事業【2, 956千円】

【サービス区分事業活動支出 2, 956千円】

(1) 社会福祉事業振興資金の償還業務（貸付は平成27年度に終了）

償還状況（臨時費6件 計3, 726, 300円 償還率100%）

(2) 川崎市社会福祉法人経営改善支援事業

- ア 経営改善相談 6件
- イ 経営健全化計画の作成支援 作成件数なし
- ウ 社会福祉施設運営費の融資 貸付件数なし
- エ 社会福祉法人経営改善支援事業通信の発行 年4回
- オ 社会福祉法人会計実務担当者向け研修会の実施
3回（7月5日、11月30日、2月10日） 参加者延べ132名

10 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

	R4	R3
一般募金全市実績額（円）	79,043,686	75,810,714
年末たすけあい募金全市実績額（円）	52,680,122	51,837,469

(2) 共同募金配分金事業

【共同募金配分金 61,597千円】

- ア 法人運営事業 【 1,088千円】
- イ 調査研究事業 【 148千円】
- ウ 研修事業 【 671千円】
- エ 企画・広報事業 【 3,952千円】
- オ 区社協推進事業 【 187千円】
- カ 部会・委員会事業 【 2,287千円】
- キ 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働
【 797千円】
- ク 区社協活動費助成金事業 【51,162千円】
- ケ その他、地域福祉の推進のための事業 【 1,305千円】
 - (ア) 子育て支援事業
 - (イ) 児童福祉週間施設訪問事業
 - (ウ) 敬老祝い金品贈呈事業
 - (エ) 障害者団体等活動助成事業

1.1 受託事業【139,857千円】

(1) 福祉パル受託事業（各区1箇所 計7箇所）

【サービス区分事業活動支出 18,574千円】

- ア 地域福祉活動の拠点施設である市内7区の福祉パルの管理運営を川崎市から受託
 - (ア) 活動拠点の管理運営による、地域福祉活動やボランティア活動の推進・支援
 - a 研修室 年間利用数 2,937件（全市）
 - b ボランティアコーナー 1,267件（全市）
 - (イ) 備品の刷新や修繕等に関する、川崎市・区社協との連絡調整

(2) 福祉人材バンク事業

【サービス区分事業活動支出 34,375千円】

- ア 福祉の仕事の相談と求人票の閲覧、紹介

	R4実績	R3実績
就職件数（件）	16	23

- (ア) 年間有効求人延べ数 10,609件
- (イ) 年間有効求職延べ人数 990件
- (ウ) 就職件数 16件
- (エ) 福祉の仕事に関する相談件数 2,329件
- (オ) 求職者スカウトサービスの実施
 - a スカウト件数 39件
 - b 応募数 26件

イ 福祉のお仕事就職・転職フェア（就職相談会）の開催

- ・ 1回目（8月17日） 総合福祉センター7階 45事業者参加

	R4実績	R3実績
来場者数（人）	65	25

延べ面談数132件 就労数4名

- ・ 2回目（12月2日、12月3日） 横浜新都市ホール 35事業者参加

	R4実績	R3実績
来場者数（人）	746	25

延べ面談数50件 就労予定人数2名

- ・ ミニ就職相談会（ハローワーク川崎、ハローワーク川崎北と共催）【新規事業】
（7月8日、9月16日、11月15日、1月13日、3月10日）
ハローワーク川崎

	R4実績	R3実績
来場者数（人）	103	

ウ 福祉人材確保のための研修会の開催

	R4実績	R3実績
各種研修会等の開（回）	16	12
参加者数（延べ人数）	403	373

(ア) 福祉人材確保事業

a 医療技術再確認研修

川崎市立川崎病院の認定看護師勉強会 全6回 159名参加

(前年 全8回 288名参加) オンライン開催

b 福祉職のための出張講座（出張依頼ごと）全6回 130名参加（前年0回0名参加）

(イ) 福祉人材確保、定着事業

a 採用担当者向けセミナー 2回 71名参加（前年2回61名）

b 医療研修 2回 43名

エ 福祉職に係る就労支援事業の実施

a 福祉施設見学バスツアー（学生向け） 3月23日

白山愛児園（児童養護施設）、みやまへの杜保育園 19名参加

b 潜在労働層への働きかけ

- ・ 幸区民祭

福祉体験を通し、福祉のお仕事紹介を実施

10/15（土）、16（日） 疑似体験 参加 約60組（150名）

チラシ・求人情報誌配布

- ・ 幸スポーツセンターぼっちゃ大会

10/10（月・祝） 来場者に100部チラシ・求人情報誌配布

c 学生向けアルバイトの取り組み

川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会人材プロジェクト委員会と連携

市内事業者を対象に現状アンケート調査実施（10/26～12月末）

令和5年度に検証結果を踏まえ検討予定

オ 関係機関及び福祉関係の学校等との連携

- (ア) かながわ福祉人材センターが主催する福祉のしごとフェア
（就職相談会・就職ガイダンス） 3回
- (イ) かながわ福祉人材センター運営委員会 3回
- (ウ) ハローワーク川崎・ハローワーク川崎北との連携
求職者向け福祉の仕事説明会 全5回
- (エ) 川崎市社会福祉協議会老人福祉施設協議会人材プロジェクト委員会 6回
- (オ) 川崎市こども未来局との連携
養成校における保育のお仕事相談及び広報啓発 4回 695名参加
- (カ) 学校連携及び学内就職ガイダンスへの協力
学内就職ガイダンス等への協力 4回 327名参加

カ こころの健康相談室『ふおーえむ』の実施及びメンタルヘルス研修の開催

- (ア) メンタルヘルス相談（月2回～3回 不定期 月・金曜日）延べ26件（前年度54件）
- (イ) メンタルヘルス研修会 2回3日 延べ29名参加（前年度27名）
- (ウ) 広報紙「ふおーえむのご案内」の発行 2回

キ 川崎市福祉人材バンク運営委員会の開催 2回（7月15日、3月15日）

※オンライン又は会場参加

ク 広報

- (ア) 求人情報紙の発行 毎月1回発行
- (イ) 人材バンク ホームページ・フェイスブック等の運営
 - a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 川崎市福祉人材バンクホームページ
<https://kawasaki-jinzaibank.jp/> 10月リニューアル
 - b 福祉のお仕事 ホームページ（福祉人材情報システム）
(<https://www.fukushi-work.jp/>)
 - c 川崎市福祉人材バンク フェイスブック
<https://www.facebook.com/jinzai.bank.kawasaki>
- (ウ) 福祉事業所等の現場職員による魅力発信動画制作（高齢・障害・保育）
<https://kawasaki-jinzaibank.jp/about-movie/>
- (エ) メールによる情報提供、利用案内等の発信（求職登録者・求人事業者向け送信）
- (オ) 人材バンクリーフレットの製作・配布
- (カ) 介護冊子「介護のシゴト」配布
- (キ) 川崎市社協広報誌 「川崎の社会福祉」
- (ク) 川崎市広報協力依頼 川崎市地域ポータルサイト、川崎市公式ツイッター、
各区役所サイネージ、アゼリアビジョン

(3) 生活福祉資金貸付事業

【サービス区分事業活動支出 19,664千円】

ア 貸付決定件数（特例貸付を除く） 153件

- イ 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付決定件数 2, 530件
- ウ 生活福祉資金貸付事業担当者会議 3回(6月30日、9月15日、12月21日)
- エ 「新型コロナ特例貸付から見える生活困窮のリアル」を発行し、関係機関に配布した。
- オ 「特例貸付から見える生活困窮のリアル」出前講座 2回(2月24日、2月27日)

(4) 福祉サービス受託事業

【サービス区分事業活動支出 58, 437千円】

- ア 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の実施及び総合的管理運営
 - 年間派遣利用者数 38名
 - 派遣時間(年延べ数) 293時間
- イ ねたきり高齢者等紙おむつ及び日常生活用具給付事業の管理運営
 - 紙おむつ給付等介護用品給付(月平均利用者数) 4, 092名
 - 日常生活用具給付(新規給付件数) 延べ8名
- ウ 生活支援型食事サービス事業の総合的管理運営
 - 利用者数(月平均) 3名
 - 食数(月平均) 64食 (年延べ数) 764食
- エ 緊急通報システム事業の管理運営
 - 自宅設置型サービスの利用者数(月平均) 507名
 - 携帯型サービスの利用者数(月平均) 1, 041名
- オ 高齢者外出支援サービス事業の管理運営
 - 登録者数 427名(令和5年3月現在)
 - 利用件数(年延べ数) 1, 944件
 - 事業運営委員会の開催 0回(新型コロナウイルス感染防止のため開催中止)
- カ 重度障害者訪問看護サービス等支援事業の総合的管理運営
 - 派遣世帯数(年延べ数) 275世帯
 - 派遣回数(年延べ数) 635回

(5) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業

【サービス区分事業活動支出 8, 807千円】

川崎区をモデルとして実施 ⇒川崎区社協該当項目掲載

12 ボランティア活動振興センター事業【11, 192千円】

【サービス区分事業活動支出 11, 192千円】

(1) 運営委員会の開催

- ア 運営委員会 2回(9月7日、3月17日)

(2) 相談・情報提供事業及び調査・研究

- ア ボランティアコーディネーター業務
 - (ア) ボランティア募集の依頼 64件(令和3年度 43件)

- (イ) ボランティア活動希望への相談・情報提供 84件 (令和3年度 67件)
- (ウ) ボランティアによる支援 3件 (令和3年度 9件)
- イ ボランティアグループ等の把握及び情報提供
 - (ア) ボランティア体験紹介冊子「ボラ・ナビ2023」の発行 1,500部
(公益財団法人かわさき市民活動センターとの共同発行)
- ウ ボランティア担当者会議の開催 6回
- エ 電話相談実務者研修(3月2日)開催 参加者36名

(3) 広報・啓発

- ア ウェブサイト並びに紙媒体等におけるボランティア関連情報の提供
 - (ア) ホームページの管理、およびウェブアクセシビリティに配慮したホームページのリニューアルを実施
 - a 社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 ホームページ
 - b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ
 - (イ) ボランティア関連情報冊子の発行
 - a 川崎市内ボランティア団体・個人活動紹介カード集の発行 85団体
 - b 「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」の発行 2,000部
- イ ボランティア交流室の貸出 434件

(4) ボランティア育成支援

- ア ボランティアコーディネーター研修の開催
 - (ア) 「災害ボランティアセンターマッチング体験～被災者支援のあり方を考える～」
(6月28日) 参加者38名
 - (イ) 「相談時のアセスメント力をアップ～ボランティア相談に必要なスキルとは～」
(2月8日) 参加者9名
- イ ボランティア・市民活動団体のためのパワーアップセミナーの開催
 - (ア) 「富永さんと対話で考える 団体の世代交代と継承
次の担い手を育て・活動をひろげ・安定させるコツ」
(1月14日) 参加者12名
 - (イ) 「メンバーがイキイキと活動できる 組織と人が育つマネジメント」
(3月5日) 参加者13名

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育推進会議の開催 4回(5月11日、7月13日、12月9日、3月3日)
- イ 福祉教育研修の開催(市内小学校・中学校福祉教育担当教諭向け)(8月18日)
参加者 22名
- ウ 川崎市内郵便局社員研修の講師協力 6回(6月14日、9月21日、1月17日、3月15日) 参加者 延べ155名

(6) 高齢者ふれあい活動支援事業【再掲】 ⇒6-(4)

(7) 災害ボランティア関連

ア 川崎市総合防災訓練における災害ボランティアセンター設置運営訓練（担当区社協との共催）及び職員及び関係機関向け研修会の開催

（ア）災害ボランティアセンター設置運営訓練 9月4日

イ 特定非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえと共催で、防災研修・訓練の開催

（ア）こども食堂防災研修・訓練 2月2日（中止）

(8) 市内ボランティア活動推進機関との連絡調整及びネットワークの推進

各区社協や公益財団法人かわさき市民活動センターなど関係機関（中間支援組織）との連携を図り、全市におけるボランティア活動の推進、ネットワーク体制の構築を進めた。

(9) 企業・関係団体における助成金情報の提供・支援

市内外の企業・関係団体からの助成金情報をホームページ、SNSや紙媒体において広く周知した。

(10) 全国・関東ブロック・県・市外関係機関との各種連絡調整、各種研修会等への参加

関係機関が主催するボランティア関連の会議や研修会に参加。

13 あんしんセンター事業【135,636千円】

【サービス区分事業活動支出 135,442千円】

【サービス区分施設整備等支出 196千円】

(1) 権利擁護にかかわる相談

相談件数 9,514件（初回相談 1,306件、継続相談 8,208件）

（※令和3年度相談件数 9,373件／初回相談件1,077、継続相談8,296件）

(2) 日常生活自立支援事業

ア 相談件数

相談件数 7,295件（初回相談 287件、継続相談 7,008件）

イ サービス契約者数（令和4年度末の継続利用者数）

	R4実績	R3実績
書類預かりサービス利用者数（人）	36	32
金銭管理サービス利用者数（人）	135	139

(3) 契約能力判定審査会の運営

ア ケース検討会議の開催 20回

（ア）新規利用申込件数 合計 47件

（イ）継続利用者の処遇 合計 7件

イ 契約能力判定審査会の開催 6回（5月19日、7月14日、9月8日、11月10日、1月19日、3月9日）

（ア）諮問件数 合計 7件

（イ）報告件数 合計 64件

（4）業務監督審査会の運営

ア 業務監督審査会の開催 5月19日、7月14日、9月8日、11月10日、1月19日、3月9日）

（ア）諮問件数 合計 1件

（イ）報告件数 合計 259件

（5）専門員及び生活支援員等研修の実施

ア 生活支援員研修

（ア）生活支援員研修2回（9月27・28日、3月3・8日受講者延べ74名）

イ 専門員研修

（ア）新任専門員研修 4回（4月5日 5月9日、8月3日、1月6日、受講者6名）

（イ）専門員研修2回（6月10・17日 7月28日、受講者延べ21名）

（6）成年後見事業（法人後見）

ア 法人後見新規受任件数 0件（※令和3年度 4件）

イ 令和4年度末の法人後見受任継続件数 43件（※令和3年度末 43件）

（7）成年後見制度連絡会の開催

ア 成年後見制度連絡会の開催 2回（6月23日、11月24日）

（8）川崎市成年後見支援センターの運営

ア 広報事業

（ア）市民向けリーフレット及び成年後見制度パンフレットの配布

（イ）成年後見制度シンポジウムの開催（2月25日） 参加者 30名

（ウ）市民向け研修会 2回（9月14日、3月7日） 受講者 延べ72名

（エ）支援関係者向け研修 2回（7月11日、11月28日） 受講者 延べ121名

（オ）成年後見制度に関する出張講座（区あんしんセンター）

56回派遣 延べ1,163名参加

イ 相談事業

（ア）職員による相談件数2,219件（初回相談1,019件、継続相談1,200件）

（イ）法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）による専門相談 53件

（ウ）支援チームへの法律・福祉の専門職（弁護士・司法書士・社会福祉士）派遣15件

（エ）支援チーム等への申立支援 126件

ウ 成年後見制度利用促進事業

（ア）申立書書き方講座（7月11日） 受講者69名

（イ）後見人候補者選定支援 「専門職後見人等のご案内」チラシの配布、受任調整会議

の実施（6月23日）

（ウ）市民後見人の養成と支援

- a 市民後見人推進委員会 3回（6月2日、9月25日、2月2日）
- b 市民後見人受任調整会議 2回（12月8日、3月9日）
- c 市民後見人養成研修基礎研修の実施 受講者14名
- d 市民後見人フォローアップ研修 2回（6月30日、12月13日）
- e 市民後見人への活動支援 適宜（電話、メール、来所等による支援）
- f 市民後見人受任状況 受任依頼6件、受任3件、未受任1件、終了4件
令和5年3月末現在10名受任中

エ 後見人支援事業

（ア）親族後見人向け研修 2回（6月24日・12月12日） 受講者10名

オ その他

（ア）川崎市成年後見制度利用促進協議会 2回（8月19日、3月17日）

（9）終活支援事業（モデル事業）

ア 終活に関する普及啓発

（ア）終活に関する相談対応

（イ）パンフレット・チラシの作成 5,000部

（ウ）エンディングノートの制作協力・配布 18,800部

（エ）終活に関するセミナー等の実施

a 全市を対象に終活に関するセミナー 2回

b 各区の老人福祉センターにおいてエンディングノート等終活に関するセミナー 7回

（オ）事業説明・周知 9回

イ 契約に基づく死後事務等の個別支援

（ア）契約件数 なし

（イ）相談件数 20件

（ウ）訪問または面接件数 12件

ウ 事業実施検討会議の実施 3回

エ 終活事業を実施している他都市社協の視察 5回

オ 終活事業に関する研修等への参加 3回

（10）その他

ア 権利擁護事業の普及啓発

（ア）川崎市あんしんセンターパンフレットの配布（随時）

（イ）市民及び福祉関係者等研修への権利擁護事業講師派遣

イ 「日常生活自立支援事業」実施状況調査

かながわ福祉サービス運営適正化委員会運営監視委員会による調査

（ア）区実施状況調査 川崎区 9月29日

（イ）実施状況ヒアリング 2月14日

ウ 区あんしんセンター事業実施調査

- (ア) アンケート調査（12月～1月に実施）
- (イ) 現地調査5区実施（多摩区は令和5年度に実施予定）
- エ 日常生活自立支援事業実施における、区社会福祉協議会への支援
 - (ア) あんしんセンター連絡会議の実施 12回（4月18日、5月16日、6月20日、7月25日、8月22日、9月26日、10月17日、11月29日、12月19日、1月16日、2月20日、3月20日）
 - (イ) 相談に対する助言
- オ 日常生活自立支援事業実施主体連絡会 2月6日 1回 2名参加
- カ 法人後見実施社協連絡会（神奈川県内の法人後見実施社協と県社協の情報交換会）
7月12日 1回 2名参加

14 地域生活支援SOSかわさき事業【950千円】

【サービス区分事業活動支出 950千円】

	R4実績	R3実績
参加法人	48法人	31法人
連携ネットワーク会議	6回	0回

(1) 連携ネットワーク事業の開催

- ア 担当者会議の開催 5回
（川崎区：7月12日、幸区：6月22日、高津区：2月20日、多摩区：11月18日、麻生区：2月2日）
- イ ネットワーク会議の開催 6回
（川崎区：12月13日、幸区：9月13日、中原区：3月15日、高津区：3月13日、多摩区：3月13日、麻生区3月17日）
- ウ 相談対応

(2) 会員間が情報共有できる仕組みづくり

- ア 会員間における地域における公益的な情報共有ツールとしたグループウェアの運営

(3) 地域向けに「公益的取組」の広報啓発

市社協公式SNS、ホームページ等を通じ取組発信

(4) 食糧支援かわさきの実施

- ア 食糧支援かわさき実績（令和5年3月31日現在）
 - (ア) 食糧の提供（企業・施設・市民等） 約29,600品（令和2年度からの累計）
 - (イ) 食糧支援実績 約3,690世帯（令和2年度からの累計）
 - (ウ) 日用品の提供 約660品（令和2年度からの累計）
 - (エ) 日用品支援実績 約500品（令和2年度からの累計）
 - (オ) 食糧保管拠点 11カ所

(5) コロナで困っている女性を支援しようイベントへの協力

桐光学園高校に通う学生有志（以下、「高校生」という）から寄せられた「コロナで困っている子育て世帯を支援したい」という気持ちを実現させるべく、本会がNECプロボノ倶楽部と協働により支援した高校生の取組（主に生活困窮状態におかれている家庭に対する食糧等の配布イベント）に協力。

ア 実施日（第1弾：5月19日、第2弾：3月15日）

イ 協力内容：食糧及び日用品の寄付並びに地域や法人・施設関係に対して呼びかけ
食糧等運搬、相談コーナーへの職員派遣 等

(6) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業への協力

SOSかわさき事業会員に呼びかけ、食料運搬や寄付協力支援を実施

15 総合研修センター管理経営事業【99,717千円】

【サービス区分事業活動支出 99,717千円】

(1) 人材開発・養成研修事業

- ア （新規）新人・新任介護職員向け実践研修 修了者 9名
- イ 介護職員実務者研修（HAPPY&SMILEとの共催） 修了者 16名
- ウ 福祉職員向け現任研修 54研修 受講者延べ 1511名+@（視聴）
- エ 法人役員・管理者向けセミナー 動画配信
- オ 介護福祉士国家試験直前対策講座 1コース 受講者 7名
- カ 認知症介護に関する研修
基礎研修 5コース 修了者 90名
実践者研修 2コース 修了者 26名
実践リーダー研修 1コース 修了者 9名
- キ 重度訪問介護従業者養成研修 修了者 6名
- ク 強度行動障害支援者養成研修 基礎研修 4コース 修了者 194名
実践研修 1コース 修了者 34名
- ケ 行動援護従業者養成研修 修了者 26名
- コ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修 修了者 20名
- サ 相談支援従事者に関する研修（初任者研修、現任研修） 8コース 修了者308名
- シ 同行援護従業者養成研修 一般課程 3コース 修了者 33名
応用研修 2コース 修了者 16名
- ス 地域包括支援センター職員向け研修
新任職員研修3会場、現任研修2研修 受講者 144名
予防給付ケアマネジメント従事者養成研修 受講者 22名
- セ 介護支援専門員専門研修課程Ⅰ・更新研修Ⅰ 1コース 修了者 46名
介護支援専門員専門研修課程Ⅱ・更新研修Ⅱ 2コース 修了者 146名

(2) 介護普及啓発事業

福祉用具の展示及び講座の実施

(ア) 福祉用具・介護用品の常設展示 41品目

(イ) (新規)福祉用具・介護用品に関する啓発事業 558名

福祉関係図書・DVD・福祉啓発教材・視聴覚機材貸出事業の実施

(ウ) 図書及び資料等所有数及び貸出数

a 図書 1,536冊 貸出実績 182冊

b DVD 187本 貸出実績 45本

(エ) 社会福祉関係視聴覚機材等所有数 19

ホームページのリニューアル、ノベルティ作成など効果的な情報発信や啓発活動を実施。

その他、事業遂行に関連する会議等への参加、会議等を主催しました。

1.6 居宅介護等事業【783,589千円】

【サービス区分事業活動支出 780,195千円】

【サービス区分施設整備等支出 3,394千円】

(1) 介護保険法に基づく訪問介護及び第1号訪問事業の実施

利用者数 延べ 12,021人/年

サービス提供時間 92,953時間/年

(令和3年度 101,266時間/年)

(2) 障害者総合支援法に基づく居宅介護事業及び地域生活支援事業の実施

利用者数 延べ 3,615人/年

サービス提供時間 31,188時間/年

(令和3年度 31,521時間/年)

(3) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業の実施

ケアプランの作成 延べ 12,469件/年

(令和3年度 12,050件/年)

(4) 自由契約事業(おたっしゅサポート)の実施

利用者数 延べ 1,396人/年

サービス提供時間 2,803時間/年

(令和3年度 6,796時間/年)

(5) 要介護者生活支援ヘルパー派遣事業の受託実施

利用者数 延べ 14人/年

サービス提供時間 103時間/年

(令和3年度 110時間/年)

(6) 福祉住宅等訪問協力員派遣事業の受託実施

市内28館の福祉住宅・シルバーハウジングに訪問協力員の派遣を行った。

(7) 各種研修の実施

ア サービス提供責任者研修 2回

イ 介護支援専門員研修 2回

ウ 介護支援部合同研修 1回

エ ヘルパー現任研修（各事業所において実施）

オ かわさき暮らしサポーター養成研修 1回（7月13日）

カ ホームヘルパー普及啓発活動 市内のホームヘルパーの確保を図るため、訪問介護支援事業所にて「ホームヘルパーのお仕事講座」を実施し、ホームヘルパーの魅力等を伝える啓発活動を行った。 3回

（かわさき：10月27日、なかはら：12月13日、さいわい：1月18日）

17 老人いこいの家管理経営事業【237,893千円】

【サービス区分事業活動支出 237,893千円】

「老人いこいの家」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。

（市内48箇所）

(1) 年間利用者数 351,664名

(2) 会議

ア 老人いこいの家調整担当者・地域課長会議 1回（11月10日）

イ 老人いこいの家調整担当 情報交換会 1回（11月10日）

ウ 老人福祉センター・老人いこいの家連絡会議 2回（4月14日、9月6日）

18 老人福祉センター管理経営事業【281,877千円】

【サービス区分事業活動支出 281,590千円】

【サービス区分施設整備等支出 287千円】

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について区社協と協働して適正な管理運営を実施した。（市内7箇所）

(1) 年間利用者数 172,690名

(2) 所長会・担当国会議 13回

・所長会議 5回

・事務担当国会議 3回

・看護職会議 2回

・講座・行事担当国会議 2回

・生活相談員会議 1回

19 公益事業

(1) 川崎市総合福祉センター事業【163,366千円】

【サービス区分事業活動支出 162,669千円】

【サービス区分施設整備等支出 697千円】

ア 施設・設備の利用提供事業

(ア) ホール、大会議室、第1・2・3会議室、和室の提供

a 年間利用件数 2,107件 (令和3年度 3,318件)

b 利用人数 32,733名 (令和3年度 256,661名)

イ 地域福祉情報バンク事業

(ア) 総合相談事業 (ふくし相談・専門相談)

a ふくし相談事業 493件 (令和3年度 520件)

b 情報バンク 327件 (令和3年度 336件)

c 専門相談 94件 (令和3年度 84件)

d 総合相談支援システムの円滑な運用

(イ) 地域福祉活動に関する情報の収集・管理・配信 (かわさき福祉情報サイトふくみみ)

a ボランティア・市民活動団体実態調査 460団体を対象に実施

b かわさき福祉情報サイトふくみみ ホームページ

c 地域福祉情報バンク通信の発行 (季刊 各7,000部)

d かわさき福祉情報サイトふくみみ フェイスブック

e 情報提供検索用パソコンの利用の貸出

f ふくみみパンフレット配布 745部

g 情報バンク広報活動強化のため、広報啓発グッズの作成と窓口等配布

(ウ) 社会福祉専門書・DVDの貸出及び資料の整備・蔵書データベースの運用

a 図書貸出 1264件 DVD貸出 190件

b コピー機貸出 (一般利用可能) 64人

c 車いす貸出 12件 (35台)

d 高齢者疑似体験セット貸出 11件 (46セット)

e 妊婦体験セット・抱き人形貸出 4件 (11セット)

f 視聴覚障害者体験セット貸出 3件 (9セット)

g ボッチャボールセット 3件 (4セット)

	R4実績	R3実績
新規貸出登録者数 (人)	69	85
図書・DVD貸出件数 (件)	1,454	1,760

ウ 地域包括ケア推進を目的に、地域住民を対象とした研修事業

(ア) 地域包括ケア推進研修 5テーマ8回実施 受講者延べ253名 (視聴0回)

(イ) 地域課題研修 5テーマ9回実施 受講者延べ240名 (視聴102回)

(ウ) 地域活動促進研修 5テーマ9回実施 受講者延べ186名 (視聴144回)

	R4実績	R3実績
研修件数 (件)	26	26
受講者数 (人)	679	498

(2) 川崎市高齢者外出支援乗車事業【1,851,649千円】

【サービス区分事業活動支出 1,851,649千円】

ア 販売実績 延べ135,333件

- (ア) 川崎区 46件
- (イ) 幸区 4,361件
- (ウ) 中原区 428件
- (エ) 高津区 819件
- (オ) 宮前区 3,151件
- (カ) 多摩区 2,981件
- (キ) 麻生区 882件
- (ク) その他バス事業者等 122,665件

	R4実績	R3実績
年間延べ交付枚数(枚)	135,333	138,048

イ 事業者会議 1回(3月14日)

(3) 地域包括支援センター事業(大師中央・溝口・登戸)【122,472千円】

【サービス区分事業活動支出 122,472千円】

ア 総合相談支援業務

総相談件数

- (ア) 大師中央 2,314件
- (イ) 溝口 3,367件
- (ウ) 登戸 2,636件

イ 権利擁護業務

権利擁護関連相談件数

- (ア) 大師中央 133件
- (イ) 溝口 108件
- (ウ) 登戸 151件

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

地域ケア会議の開催

- (ア) 大師中央 圏域会議4回(7/20、11/30、2/8、3/16)
個別ケア会議4回(4/6、4/20、11/14、2/3)
- (イ) 溝口 圏域会議1回(8/29 書面開催)
個別ケア会議5回(4/28、8/17、9/14、10/26、2/13)
- (ウ) 登戸 圏域会議1回(3/28)
個別ケア会議2回(5/26、1/26)

エ 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防プラン作成数

- (ア) 大師中央 1,934件(外部委託分 658件含む)
- (イ) 溝口 2,245件(外部委託分 780件含む)
- (ウ) 登戸 2,780件(外部委託分1,165件含む)

オ 川崎市高齢者福祉サービスの利用調整

介護保険サービス外の相談件数

- (ア) 大師中央 840件
- (イ) 溝口 1,487件
- (ウ) 登戸 1,072件

(4) 川崎市内の保育士人材確保を目的とした保育士修学資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 73,766千円】

ア 修学資金	貸付人数	59名	貸付決定額	63,420,000円
イ 入学準備金	貸付人数	42名	貸付決定額	8,110,000円
ウ 就職準備金	貸付人数	56名	貸付決定額	11,200,000円
エ 生活費加算	貸付人数	0名	貸付決定額	0円

(5) ひとり親家庭の自立の促進を図ることを目的としたひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施

【サービス区分事業活動支出 19,610千円】

ア 入学準備金	貸付人数	10名	貸付決定額	4,840,000円
イ 就職準備金	貸付人数	9名	貸付決定額	1,800,000円
ウ 住宅支援資金	貸付人数	26名	貸付決定額	9,646,500円

20 民生委員児童委員活動及び川崎市民生委員児童委員協議会との連携・協働【797千円】

【共同募金配分金 797千円】

(1) 川崎市民生委員児童委員協議会との協働及び助成事業の実施

21 災害活動関連事業

(1) 災害活動基金の管理

ア 寄付額	0円
イ 支出額（災害ボランティアセンター設置に係る経費）	0円
ウ 令和4年度末残高	33,490,779円
（令和3年度末残高	33,490,779円）

(2) 事業継続計画と職員行動マニュアルの定期的な検証

各部署に設置し、4月に見直しを行った（定期実施）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

職員用災害時備蓄（80名×3日分以上）

(4) 災害発生時、川崎市との協定に基づく帰宅困難者の一時的な受け入れ

- ア 帰宅困難者の一時的な受け入れ 無し
- イ 帰宅困難者対策用備蓄物資の保管

(5) 被災地支援

「関東ブロック都県・指定都市社会福祉協議会災害時相互支援に関する協定」に基づき、静岡市災害ボランティアセンターへ職員派遣を行った。

- ア 派遣期間 10月7日～11日、10月15日～19日、10月23日～27日、
10月31日～11月4日、11月8日～12日、11月16日～20日
- イ 派遣職員数 延べ11名

2.2 その他

(1) 児童福祉施設訪問事業の実施

- ア 児童福祉週間（5月5日～11日）
 - (ア) ポスターの掲示 川崎市総合福祉センター及び各区福祉パル
- イ 児童福祉施設訪問
 - ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
 - プレゼントとメッセージカードを7か所に送付

(2) 高齢者福祉施設等訪問事業の実施

- ア 高齢者福祉施設等訪問（9月19日）
 - (ア) 訪問施設3か所（南部・中部・北部より1か所）
 - (イ) 市内高齢者個人宅1か所（川崎区）
 - 訪問者 市社協会長
- イ 祝品贈呈
 - 訪問施設以外（60か所）は川崎市の祝品とあわせて直接配送

(3) #Share Smile かわさき 心のキヨリは離れない～今できること～

新型コロナウイルス感染症の影響による地域住民や関係機関・団体から寄せられた困りごとや支援をしたいという声をつなぐための取組を実施

- ア 食糧支援かわさき【再掲】 ⇒14-(4)ア
- イ Withコロナ地域福祉活動ヒント集～9つのルール～発行
- ウ オリジナルステッカー配布

(4) 常務理事と職員との意見交換会

- ①職員との意見交換会 1回（川崎区：7月27日 幸区：8月4日 中原区：8月3日 高津区：8月3日 宮前区：8月4日 多摩区：8月4日 麻生区：8月3日 研修センター：12月1日）
- ②川崎市社協新人・若手職員フォローアップ懇談会 1回（9月7日）

(5) 情報共有の場

第5期地域福祉活動推進計画（具体的取組⑦）の社協における相談機能強化の取組に基づき、市社協・区社協における各事業の方針や方向性の共通理解と、事業に関わる意識の共有を図ると同時に、組織が抱える課題の発掘、解決に向けた検討の場として設置

5回（4月8日、7月26日、9月5日、10月14日、2月20日）

(6) 新たな寄付形態の導入

自主財源確保に向けた一つの手法として、川崎市社協オリジナルキャラクターななふくのLINEスタンプを制作。

川崎市川崎区社会福祉協議会 令和4年度 事業報告

重点事業

1 地区社協活動の支援・援助

地域支え合い活動助成金を交付し、地区社会福祉協議会の活動を支援しました。地区社協が主体となり、地域福祉懇談会、テーマ別の研修会、見守り活動、認知症予防を目的としたサロンなど、地区ごとに独自性のある事業が展開されました。

2 総合相談支援事業

生活相談等、年間を通じて12件の相談を受け、様々な関係機関と連携しながら、必要な情報提供、適切な機関へつなぐ等の支援を行いました。

3 災害支援の取組み

川崎区総合防災訓練（10月22日）に参加し、災害ボランティアセンターの運営訓練を行うとともに、運営方法を確認しました。災害ボランティアセンターのチラシ及び令和元年度台風19号による社会福祉協議会の対応に関するチラシの配布、災害時のボランティア活動に関するパネルの展示を通じて、災害ボランティアセンターの働きについて広く周知するとともに災害時のボランティア活動についての理解を深めていただきました。

事業報告の内容

川崎区社会福祉協議会 事業費【45,290千円】

【サービス区分事業活動支出 35,967千円】

【共同募金配分金 9,323千円】

1 川崎区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 4回（5月26日、9月※書面にて決議、12月22日、2月22日）

イ 運営協議会の開催 2回（5月※書面にて決議、2月24日）

(2) 令和4年度会員及び賛助会員数

	R4実績	R3実績
会員数	154	155
賛助会員数	2,618	2,457

(3) 種別会議

種別会議の開催 1回（3月6日。合同開催）

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 881,778円

2 調査・研究事業

(1) 第5期地域福祉活動計画の進行・管理

ア 常任委員会にて確認（2月22日）

(2) 福祉ニーズ調査・検討

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

11月19日（研修会として川崎区社会福祉大会の中で講演会を実施）

常任委員会委員・運営協議会委員参加者 26名（講演会参加者 78名）

4 企画・広報事業

(1) 令和4年度川崎区社会福祉大会の開催

11月19日 参加者89名

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「ウェーブ」の発行

- ア 広報紙「ウェーブ」年3回 112号(46,000部)、113号(46,000部)、114号(46,000部)発行
- イ リーフレット 1,500部発行

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

- ア ホームページでの情報発信
川崎市社会福祉協議会 ホームページ (<https://www.kawasakiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

(1) こども食堂情報交換会のほか、こども食堂を含めたこどもの居場所づくりに関する支援の実施

川崎市社協主催研修への開催協力

(2) 川崎市要支援家庭見守り体制強化事業

十分な食事をとることの出来ない子どものいる家庭に対して、行政等の関係機関や川崎市社協が行う「地域生活支援SOSかわさき事業」と連携し、子どもの食糧支援を行った。また、地域で行われているフードパントリー等の活動に協力した。

支援世帯数 197世帯

(3) 保育物品の貸出

保育物品の貸出 53件

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネットの貸出し 15団体

(5) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 347件

(6) 福祉用具の再利用

譲ります 11件、譲ってください 10件、成約 5件

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

区内地区社協への助成 計9,075,800円

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和4年度は申請なし

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア	会食活動に助成	33団体	計	3,709,000円	(区社協助成分含む)
イ	配食活動に助成	2団体	計	371,000円	(区社協助成分含む)
ウ	ミニデイサービス活動に助成	4団体	計	916,000円	(区社協助成分含む)
エ	高齢者ふれあい活動実施団体交流会(研修会)の開催 2回(11月9日、1月12日)				

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

地区社協会長連絡会 2回(6月24日、3月13日)

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末支援金配布 413世帯 計2,065,000円

(2) 障がい者福祉啓発事業(障がい者福祉に関する講座の開催)

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(3) 子育て支援事業

子育てグループに助成金配布 13団体 計284,000円

(4) ボランティア・当事者団体への活動助成

ボランティア・当事者団体へ助成金配布 29団体 計1,980,360円

(5) 総合相談支援事業

相談件数 12件

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し

研修室 283件、ボランティアコーナー 8件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

印刷機 88件、コピー機 38件

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数	47件
イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）決定件数	665件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 2回（6月1日、3月24日）

(2) ボランティア依頼および活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	33件
イ ボランティア募集の依頼	10件

(3) ボランティア情報誌「いっぽ」の発行等、広報活動の実施

広報紙「ウェーブ」第113号に特別号として掲載

(4) 各種講座・セミナーの開催

- ア 令和4年度夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2022」の開催（7月23日～8月20日）
- イ ボランティア基礎講座「ボランティア講座&交流会～つながりをたやさない地域づくり～」の開催（3月3日）

(5) 福祉教育の推進

ア 福祉教育に関する相談	28件
--------------	-----

12 川崎区あんしんセンター事業

区内に在住する認知症高齢者、身体障害者、知的障害者、精神障害者等が、地域の中で安心して自立した生活を送ることができるよう、関係機関と連携を図りながら日常生活自立支援事業を実施した。また、令和3年7月に開設された川崎市成年後見支援センターの相談窓口として、成年後見制度の利用に向けた相談、支援を行うとともに、地域への広報活動を行った。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 2, 373件（初回相談48件、継続相談2, 325件）

（※令和3年度相談件数 2, 006件／初回相談48件、継続相談1, 958件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 384件（初回相談140件、継続相談244件）

（※令和3年度相談件数 137件／初回相談67件、継続相談70件）

1 3 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

開催数 6回 利用人数 72人

(2) 夜間・休日等施設開放事業

開催数10回 利用人数 282人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計67,855人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 9回（※内、書面開催4回）

イ 運営委員長会議 1回（3月13日）

1 4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ52件

※令和5年3月31日を持ち区社協窓口での販売業務終了。

1 5 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティアセンター

広報啓発 10月22日（川崎区総合防災訓練にて）

1 6 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会川崎区支会への協力

募金実績 22,782,755円 達成率 73.0%

(2) 川崎区民生委員児童委員協議会

川崎区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1 7 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

老人福祉センターとの連携など川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市幸区社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

◆重点事業◆

1 [第5期幸区地域福祉活動計画]に沿った事業の実施

令和3年度から3年間の計画期間、中間年度の取り組みとなりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止した事業を、感染症予防対策を徹底しながら再開しました。

2 住民交流活動拠点の円滑な運営

区内3か所で展開している「陽だまり」の運営を行いました。感染症予防対策を継続しながら、休止していた活動を徐々に再開させました。幅広い世代に利用してもらうための広報を兼ねたイベントも、実施することが出来ました。

3 福祉教育への取り組み強化

学校の総合的な時間に、講師として参加したほか、講師派遣の調整をしました。感染予防対策を講じながら、地区社協、地区民児協をはじめとした地域の方と一緒に学校に出向き、地域活動の紹介も行いました。

疑似体験グッズの貸し出しや団体の紹介等を通して福祉の理解につながるよう努めました。

4 総合相談事業の実施体制の整備

老人いこいの家や、陽だまり等の地域拠点も含め、住民から寄せられる様々な相談をしっかりと受け止め、関係機関等と連携し解決につなげられるように努めました。

地域の大学生を対象とした食料支援は、地元地域や企業と連携し継続して実施しました。

5 安定財源確保と啓発強化

広報紙による寄附の呼びかけを行いました。あわせて、寄附の使い道が分かるように工夫し広報しました。社会福祉大会や、プラザ祭りの開催時には、区社協・地区社協の活動を紹介する展示や、広報を行い啓発に努めました。

事業報告の内容

幸区社会福祉協議会 事業費【50,227千円】

【サービス区分事業活動支出	34,117千円】
【共同募金配分金	16,110千円】

1 幸区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催	3回（6月1日、9月1日、2月14日）
イ 運営協議会の開催	1回（3月22日）

(2) 各種委員会の開催

ア 機関紙編集委員会	4回（6月20日、9月16日、12月15日、3月8日）
イ ボランティア運営委員会	2回（6月23日、3月13日）

(3) 自主財源の確保

寄附金品の受入れ寄附金 延21件 455,000円／寄附品 延3件)

(4) 会員の増強、賛助会員・協賛会員の募集

令和4年度会員

	R4実績	R3実績
正会員数	109	113
賛助会員数	4,636	4,827

(5) 社会福祉士相談援助実習の受け入れ

社会福祉士相談援助実習 1名

老年看護学実習 24名

2 調査・研究事業

(1) 「第5期地域福祉活動計画」に沿った取り組みの実施

第5期地域福祉計画に基づき事業を実施した。

(2) 次期地域福祉活動計画策定に向けた市社協・区社協間での調整

(3) 安定した事業運営のための財源確保及び組織体制の検討

令和3年度に検討した積算方法に基づき助成金等の配分を行った。

3 研修事業

- (1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催
常任委員会を対象とした研修会の開催 1回（3月14日）

4 企画・広報事業

- (1) 川崎市幸区社会福祉大会の開催
区内で社会福祉に功労のあった方へ表彰状・感謝状の贈呈（9月22日）
- (2) 広報紙「幸区の社会福祉」の発行
機関紙「幸区の社会福祉」 年4回、各55,000部発行
回覧または全戸配付
- (3) 「幸区社協通信」の発行
情報紙「幸区社協通信」の発行 月1回、550部発行
- (4) 区社協ホームページでの情報提供の充実強化
ホームページでの情報発信
幸区社会福祉協議会 ホームページ (<http://www.saiwaiku-shakyo.jp/>)

5 地域福祉活動事業

- (1) 地区社協との連携
地区社協の定例会等に地域担当職員が出席し情報の共有を図った。また、活動への協力、支援を行った。
- (2) 子育て支援事業や会食会等への支援
地区社協等が実施している事業に対し共同募金を財源とした支援を実施。
- (3) 地区社協連絡会議の開催
地区社協会長連絡会 1回（6月17日）
- (4) 住民活動交流拠点（陽だまり3か所）の運営
小倉の駅舎陽だまり、塚越の陽だまり、河原町の陽だまりの3か所について、各運営委員会と協力し運営。
- (5) シニア向けいきがづくり・介護予防事業の実施
河原町の陽だまりにおいて、委託を受け事業を実施。健康講座12回、終活講座11回、スマホ相談会23回、スマホの使い方講座6回、居場所づくり事業7回

(6) 総合相談事業の体制整備

福祉パルのほか、老人いこいの家や陽だまり等の拠点において、利用者からの相談の聞き取りと関係機関等の情報を提供。

(7) 相談を通じた住民の福祉ニーズの把握

年間総相談件数 824件

(8) 移送サービス事業の実施

登録会員 6名 年間利用件数 82件 登録ボランティア 17名

(9) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 162件

学校への貸出 4件

(10) 高齢者疑似体験グッズ等の福祉用具の貸し出し

ア 小学校への貸し出し 7校

イ その他地域団体への貸し出し 1件

(11) 福祉用具のリサイクル

ア 譲りたい要望 0件

イ 譲ってほしい要望 1件

ウ 譲渡成立件数 0件

(12) 障害者関係等団体との協働

幸区精神保健福祉連絡会に参画し、メンタルヘルス講座を2度開催

(13) 区内障害者施設関係者との情報交換の実施

川崎市幸区社会福祉大会、プラザ祭りの活動紹介についての打合せ及び情報交換を実施

(14) 子育て支援に関する啓発事業

ア 広報紙等による子育て支援に関する情報提供に協力

イ 幸区こども総合支援ネットワーク会議に参画しこども情報ネットさいわいの編集、発行に協力（46号、47号、48号を発行）

(15) 「みんなで子育てフェアさいわい」への参加・協力

ア 部会出席 4回（7月1日、8月23日、9月16日、12月9日）

イ みんなで子育てフェアさいわい

「外に飛び出そう！みんなで子育てフェアさいわい」としてデジタルスタンプラリーを開催（10月15日～11月6日）

(16) プラザ祭りの開催

さいわい健康福祉プラザにおいて、老人福祉センター、こども文化センターと協働でプラザ祭りを実施。共催団体の作品や活動を紹介する展示や、工作や体験ができるコーナー等を設置し開催した。(10月15日・16日)

(17) 区内の生活困窮者支援の一環として食料や日用品の配布を実施

食料支援かわさきの拠点として28件対応

学生向けの食料支援を実施(12月23日 延べ70件/窓口での対応36件)

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

地域福祉活動費 計5,565,600円

(2) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

会食活動に助成 21団体 計 2,345,407円

配食活動に助成 1団体 計 140,000円

ミニデイサービス活動に助成 3団体 計 319,000円

(3) 幸区民生委員児童委員協議会への助成

幸区民児協育成費 計160,000円

(4) 社会を明るくする運動等への助成

社会を明るくする運動 50,000円

リレーカーニバル 25,000円

幸区民祭協賛 50,000円

幸区ボッチャ大会への協賛 10,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動(年末たすけあい運動含む)に協力

(2) 共同募金配分金を財源とした事業の実施

年末慰問金配布 340世帯・計1,700,000円

年末慰問品配布(お茶) 2,810世帯・計1,760,184円

会食・配食・ミニデイ実施団体助成 23団体 計460,000円

子育て支援事業実施団体助成 7団体 計350,000円

当事者団体活動助成 1団体 50,000円

ボランティアグループ活動助成 10団体 415,000円

8 福祉パル管理運営事業

- (1) 研修室およびボランティアコーナーの貸出し
研修室 382 件、ボランティアコーナー 133 件
- (2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し
- (3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

9 生活福祉資金貸付事業

- (1) 生活福祉資金貸付事業
 - ア 区内貸付決定件数 8 件
 - イ 区内特例貸付申請件数 240 件

10 ボランティア活動振興事業

- (1) ボランティアセンターの運営
- (2) ボランティアセンター運営委員会の開催
運営委員会 2回（6月23日、3月13日）
- (3) ボランティア等に関する相談と調整、情報収集と提供
 - ア ボランティア活動希望への相談・情報提供 33 件（令和3年度 37 件）
 - イ ボランティア募集の依頼 13 件（令和3年度 22 件）
 - ウ ボランティアによる支援 8 件（令和3年度 2 件）
- (4) 人材の育成、講座の開催
 - ア ボランティア講座の開催 1回（2月20日） 参加者 18名
 - イ ボランティア活動パワーアップセミナーの開催
移送ボランティアフォローアップ研修（2月15日） 参加者 23名
- (5) ボランティア情報の発信
- (6) 交流会の実施
 - ア 移送ボランティア交流会（2月15日）参加者 15名
 - イ ボランティア交流会（3月13日）参加者 53名

(7) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 9件(小学校 8件、地域団体 1件)
- イ チャレボラ2022 全5プログラム実施、15名参加

(8) ボランティア保険の受付

令和4年度保険加入件数 372件

1.1 幸区あんしんセンター事業

援助が必要な高齢者や障害者が、地域の中で自立した生活を送ることができるよう、関係機関と密に連携を図りながら事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 732件(初回相談51件、継続相談681件)

(※令和3年度相談件数 744件/初回相談50件、継続相談694件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 295件(初回相談98件、継続相談197件)

(※令和3年度相談件数 162件/初回相談62件、継続相談100件)

1.2 老人いこいの家運営等事業

年間利用者数 45,768名

総合相談窓口 利用者からの聞き取りにより助言や関係機関を案内した。

適切な管理 不良個所の迅速な修繕、管理人による日常的な点検。緊急時対応マニュアル、土砂災害対応マニュアルの見直し。避難訓練の実施。各施設年2回。

教養講座 20講座 年322回開催

入浴事業 入浴事業実施回数 377回

老人いこいの家まつりの開催 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、まつりは中止。代替として作品展を開催(多世代・地域交流事業と同時開催)。踊りや歌などの、舞台発表が出来ないため、団体ごとに録画した活動をテレビ等で流し、来場者に見てもらった。

多世代・地域交流事業の実施 老人いこいの家利用者の作品とこども文化センターやわくわくプラザ、近隣保育園や小学校のこども達の作品を一緒に展示する作品展を開催(老人いこいの家まつり代替事業と同時開催)。また、こども文化センターとボッチャやマンカラなどを一緒に楽しむ日を設けたほか、近隣保育園の園児とハロウィンのプレゼント交換を行い利用者と交流した。

老人いこいの家運営委員会の開催 13回（10月11日、11月1日、11月14日、11月16日、11月18日、12月13日、12月15日、1月10日、1月11日、1月16日※2カ所開催、3月9日、3月17日）

1 3 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業（高齢者フリーパス交付）の実施

販売実績 延べ4,786件

1 4 災害活動関連事業

(1) 災害時におけるボランティアセンターの役割について検討

1 5 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会幸区支会への協力

- ア 募金実績 一般募金12,879,632円 達成率 80.8%
年末たすけあい募金8,821,728円 達成率81.7%
- イ 区支会委員会の実施 3回（5月20日、6月17日、1月18日）

(2) 幸区民生委員児童委員協議会

幸区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力。

1 6 その他

(1) 幸区制50周年記念事業に参加協力

幸区制50周年を記念した「幸50祭」のイベント開催時に、老人福祉センター、こども文化センターと協働し「幸50祭」プラザでもやっているよ！と題し、プレプラザ祭りを実施。（6月4日）

(2) 川崎市社会福祉協議会の事業に協力

「老人福祉（・地域交流）センター」の指定管理運営事業について、市社協と区社協が協働、連携して適正な管理運営を実施。

年間利用者数 28,599名

相談事業 健康相談 月4回 内科医、整形外科医が交代で実施

生活相談 随時対応（看護師による健康相談・血圧測定実施）

講座 21 講座実施

行事 踊ろう会、手仕事の会、スマホ・タブレットなんでも相談会、ラジオ体操・脳トレ、おもいを伝えるエンディングノート、菖蒲湯、七夕飾り、歴史を訪ねて「東海道五十三次」～日本橋～、コグニサイズ、介護保険の基礎知識、ボッチャ体験会、寝たきり予防セミナー、敬老のつどい、ボッチャ審判講習会、プラザまつり
幸区ボッチャ大会、健康長寿の秘訣、秋の散策「市日本民家園」、秋の防災講座
内科講演「頻尿や尿漏れ」、柚子湯、終活セミナー「エンディングノートの書き方」、新春書初め、節分豆まき、幸ハッピーフェスティバル（幸こども文化センター行事に参加）、歩行測定団さいわい

川崎市中原区社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動の推進

地区社協や福祉団体等への活動経費の一部助成を通じて、地域福祉活動や在宅福祉活動を育成支援しました。

地域福祉活動拠点としての新たな取り組みについては、新型コロナウイルスの影響などにより具体的な検討には至りませんでした。

地域福祉ケアシステムの構築に向けた行政、関係機関との連携については、行政の主催事業への協力や関係会議への出席などにより連携を図りました。

2 ボランティア活動の推進

ボランティアセンター運営委員会を年3回開催し、ボランティア団体の育成や活動を支援する一環として、ボランティア養成講座を年4回開催しました。

広報活動については、ボランティア情報誌「ポポラーレ」を年4回（各1,400部）発行し、ボランティアセンターの紹介、ボランティア活動や地域活動に関する貸出物品の案内などの情報発信を通じて、ボランティアセンターの機能充実と利用促進に向けた取り組みに努めました。

3 広報啓発活動、組織体制の強化

常任委員会や運営協議会、地区社協会長会議、各委員会を開催し、適切な組織運営を行い、ネットワークの強化に努めました。

また、令和2年度に策定した第4期地域福祉活動計画（令和3年度～令和5年度）に基づき、「みんなが主役」、「みんなにわかる」、「みんなでつくる」おたがいさまの心で満ち溢れるなかはらの福祉を実現するため、住民の地域福祉活動への参加が促進されるように啓発などに取り組み、地域福祉の推進に努めました。

広報紙については、編集委員会を開催し、地域の福祉情報やボランティア情報、社協事業を広く住民に周知するための広報紙「社協なかはら」を年4回発行し、福祉サービスの情報提供の充実に取り組みました。

多数の人が集まる事業や行事については、正副会長会議や地区社協会長会議、本会の各種委員会において、開催について検討し、新型コロナウイルスの感染拡大防止に取り組むとともに、感染状況等を踏まえて中止の判断や規模の縮小、内容の変更など適切な対応に努めました。

事業報告の内容

中原区社会福祉協議会 事業費【40,009千円】

【サービス区分事業活動支出	26,801千円】
【共同募金配分金	13,208千円】

1 中原区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ア 常任委員会の開催 3回（5月、9月、2月）
- イ 運営協議会の開催 1回（3月）
- ウ 正副会長会議の開催 1回（5月）

(2) 令和4年度会員及び賛助会員数

	R4実績	R3実績
会員数	121	112
賛助会員数	1,619	1,613

(3) 種別会議

第6種会員種別会議（社会福祉施設）、第9種会員種別会議（障害者等当事者団体）、第10種会員種別会議（ボランティアグループ）、第11種会員種別会議（福祉関係団体・機関）の開催 各1回（2月）

(4) 寄付金品の受け入れ

合計 125,540円

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の推進

計画に基づいて各事業の推進に努めた。

3 研修事業

(1) 常任委員会委員及び運営協議会委員研修会の開催

令和4年度市社協地域部会地区社協役員等研修会に参加

4 企画・広報事業

(1) 第26回なかはら福祉健康まつりの開催

※令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 充実した福祉情報を発信するための広報紙「社協なかはら」の発行

ア 広報紙「社協なかはら」年4回発行

125号(84,000部)、126号(84,000部)

127号(80,000部)、128号(80,000部)

(3) ホームページを活用した地域活動紹介と啓発活動の推進

ア ホームページでの情報発信

中原区社会福祉協議会 ホームページ (www.nakaharaku-shakyo.jp)

(4) 中原区社協新春のつどいの開催

2月10日 宝珍樓向河原店 参加者31人

5 地域福祉活動事業

(1) 福祉関係交流集会(第26回なかはら健康福祉まつり)

※令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(2) 保有物品の貸出

高齢者疑似体験グッズ等 19件

(3) 障害者(児)リフレッシュ事業

区内在住の障害者(児)及びその家族への生きがいや自立支援を目的に、コンサートに招待した。

(4) 福祉パルを活動拠点としている団体へのキャビネットの貸出し

キャビネット貸出し 18団体

(5) 車いすの貸出

区民への車いす無料貸出 238件

(6) 福祉用具の再利用

ア 譲りたい要望 22件

イ 譲ってほしい要望 6件

ウ 譲渡成立件数 13件

6 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会等への助成

区内地区社協、地区民協 5団体 計 1,688,111円

福祉活動 6団体 計 200,000円

(2) 社会を明るくする運動への助成

令和4年度 50,000円

(3) 高齢者ふれあい活動実施団体への助成

ア 会食活動に助成 10団体 計 1,343,000円

イ 配食活動に助成 1団体 計 195,000円

ウ 高齢者ふれあい活動実施団体交流会（研修会）の開催

※令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

7 連絡・調整事業

(1) 地区社会福祉協議会会長連絡会の開催

地区社協会長会議の開催 2回（6月17日、12月7日）

(2) 関係機関が開催する連絡会議等への出席

(3) 会員への情報提供

会員向け情報紙「なかはらタイムズ」を毎月発行

8 共同募金事業

(1) 福祉ニーズを持つ世帯への年末支援金配分事業

年末見舞金配布 743世帯・計 3,715,000円

(2) 子育て支援事業

ア 子育てグループに助成金配布 6団体 計 146,000円

イ 講座（子育て支援講座）の開催

※令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

(3) ボランティア・当事者団体への活動助成

12団体 計 380,000円

9 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室及びボランティアコーナーの貸出し

研修室 342件、ボランティアコーナー 139件

(2) 地域福祉活動に必要な印刷機等の機材、機器の貸出し

(3) 情報コーナーの設置によるチラシ・ポスター等の掲示

10 生活福祉資金貸付事業

(1) 生活福祉資金貸付事業

ア 通常貸付（新型コロナウイルス関係を除く）決定件数	10件
イ 特例貸付（新型コロナウイルス関係）申請件数	261件

11 ボランティア活動振興事業

(1) ボランティアセンター運営委員会の開催

運営委員会 3回（5月27日、10月4日、2月21日）

(2) ボランティア依頼及び活動希望の相談・調整

ア ボランティア活動希望への相談・情報提供	57件（令和3年度 20件）
イ ボランティア募集の依頼	34件（令和3年度 9件）

(3) ボランティア情報誌の発行等、広報活動の実施

- ア 情報誌「ポポラーレ」年4回発行（4月、7月、10月、1月 各1400部）
- イ 広報活動 情報誌やボランティア相談等においてボランティアセンターを周知した。なかはら福祉健康まつりにおけるPR活動は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からまつりが中止となり未実施

(4) 各種講座・セミナーの開催

一般区民を対象としたボランティア講座を年4回開催

(5) 福祉教育の推進

- ア 福祉教育に関する相談 16件（小学校8件、その他8件）

12 中原区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 743件（初回相談39件、継続相談704件）
（※令和3年度相談件数 906件／初回相談33件、継続相談873件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 235件（初回相談94件、継続相談141件）

13 老人いこいの家運営等事業

(1) ミニデイケアサービス事業

参加人数 96人 ・ ボランティア 89人

(2) 夜間・休日等施設開放事業

利用人数 計 116 人

(3) 区内老人いこいの家利用者数

利用人数 計 51,574 人

(4) 老人いこいの家運営委員会及び運営委員長会議の開催

ア 運営委員会 中丸子、西加瀬、井田 各 2 回

等々力、ごうじ、新城、丸子多摩川 各 2 回 (但し 1 回は書面表決)

1.4 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業 (高齢者フリーパス交付) の実施

販売実績 延べ 534 件

1.5 災害活動関連事業

(1) 災害対策・事業関連

イ 災害関係機関との連携強化

中原区社協種別会議にて、関係機関と災害時の連携について情報交換を行った。

令和 4 年度第 2 回中原区総合防災訓練に参加した。

1.6 団体事務

関係する団体の事務局として運営・活動の支援協力を行った。

(1) 神奈川県共同募金会中原区支会への協力

募金実績 23,552,933 円 達成率 75.8%

(2) 中原区民生委員児童委員協議会

中原区民児協の事務局として、研修会の開催やその他各種会議等に協力

1.7 その他

(1) 川崎市社会福祉協議会が実施する事業に協力

川崎市社協が「地域生活支援 SOS かわさき事業」の一環として行っている「食糧支援かわさき」に協力し、食糧を必要としている世帯へ食糧を配分した。

また、中原老人福祉センターとの連携を図り、センターの事業運営に協力した。

川崎市高津区社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

◆重点事業◆

1 健康づくり・いきがづくり「おたっしゃ10のトライ」「おたっしゃでつながる地域の輪」推進事業の推進

各いこいの家において、ぶらっと体操などの健康体操を実施する他、いきがづくりとして教養講座を実施しました。また、健康増進と地域づくりの啓発に向けて、高津区敬老会やテントラ音頭の踊り方講習会を実施しました。

地域で認知症の方々を支える認知症普及啓発への取り組みとして、高津区ボランティアセンターにおいて認知症サポーター養成講座を実施しました。

また、認知症高齢者や知的障害者、精神障害者など判断能力が十分でない方の財産管理や生活支援を目的とした成年後見制度に関する講座を、各いこいの家において実施しました。

2 活動・交流の場づくりや機会づくり

縁があって住まう高津区で、これからも元気にいきいきと暮らしていけるよう、困ったときにはお互いさまで、助け合うことができる地域づくりをすすめるために、住民主体の取組みである「たかつの縁側」「子育てサロンinしもさくのべ」など居場所づくりの支援や、高津区ボランティアセンターの運営を通じて、活動を始めるきっかけとなる傾聴講座の実施や活動者同士のつながりを作る交流会を実施しました。

3 地域福祉活動の活性化・参加の促進

ふれあい会食会や親子で楽しめる行事の開催など、区内の地区社会福祉協議会の活動を支援し、住民主体の活動の活性化、住民参加の促進に努めました。

たかつボランティア・当事者連絡会と連携し、誰もが地域福祉活動に参加できる環境づくりを推進しました。

また、小学生から大学生を対象とした「チャレボラ2022」を市内社協で共催し、若者に福祉の学びの場を提供するとともに、ボランティア活動への参加促進に努めました。

4 災害時の支援体制の充実

高津地区防災訓練（西梶ヶ谷小学校にて実施）に参加し、高津区の町会・自治会の方々に対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行いました。

5 行政との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターをはじめとする行政機関と、定期的な連携会議等において、地域課題や地域活動の支援、区民一人ひとりの自助・互助活動が促進されるような取り組みについて協議する他、地域活動や民生委員児童委員協議会への支援などに協働して取り組みました。

事業報告の内容

高津区社会福祉協議会 事業費【39,717千円】

【サービス区分事業活動支出 31,748千円】

【サービス区分施設整備等支出 120千円】

【共同募金配分金 7,849千円】

1 高津区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

ア 常任委員会の開催 3回（5月31日、10月4日、2月21日）

イ 運営協議会の開催 2回（6月1日、2月22日）

(2) 地区社協・地区民児協会会長会議

ア 地区社協・地区民児協会会長会議の開催 3回（5月31日、12月6日、2月21日）

(3) 会員、賛助会員実績

ア 正会員 122件

イ 賛助会員 2,263件

	R4実績	R3実績
正会員数	122	124
賛助会員数	2,263	2,380

(4) 寄附金の受入れ活用

ア 寄託金 21件

イ 寄託品 3件

	R4実績	R3実績
寄託金（件）	21	32
寄託金（円）	1,374,997	1,749,005
寄託品（件）	3	6

2 調査・研究事業

(1) 第4期高津区地域福祉活動計画の推進

令和4年度は令和2年度に中間見直しを行った計画に基づいて事業の推進に努めた。

3 研修事業

(1) 区・地区社会福祉協議会研修会の開催

ア 区・地区社会福祉協議会研修会の開催 1回（3月13日）

4 企画・広報事業

(1) 広報紙「おあしす」(年2回発行、編集委員会の開催)・情報紙「トピックス」(毎月発行)

ア 広報紙「おあしす」 年2回、各7,000部発行、編集委員会の開催 6回(7月1日、7月15日、8月3日、12月21日、1月20日、2月3日)

イ 情報紙「トピックス」年12回、各530部発行

(2) ホームページの運用

ア ホームページでの情報発信

高津区社会福祉協議会 ホームページ (<https://takatsuku-shakyo.jp/>)

(3) たかつ区健康福祉まつり・高津区民祭への参加

令和4年度参加予定であった「たかつ区健康福祉まつり」・「高津区民祭」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会への支援、連携・協働

共同募金配分金を財源とした交付金及び賛助会費の配分金を高津区内の4地区社協へ活動費として助成した。

また、地区社協が地域の高齢者、障害児・者、児童・青少年などを対象として推進している小地域福祉活動に対し、情報提供や事務的な協力などにより活動を支援した。

(2) 「おたっしや10のトライ」推進事業の推進

高津区の健康運動「おたっしや10のトライ」を推進するために、地区社協、ボランティアグループ等で構成するチームを設置し、地域の中で具体的にできる活動について協議し、高津みんながつながる音楽会の開催やテントラ音頭の普及などについて検討した。

健康運動普及推進チーム「チームテントラ」会議の開催 2回(4月14日、7月26日)

(3) 「おたっしやでつながる地域の輪」推進事業の実施

ア 高津みんながつながる音楽会については、会場に予定していた高津市民館の改修工事のため中止

イ テントラ音頭の普及として、踊り方の講習会を開催 3回(5月17日、5月26日、5月30日) 参加者計79人

ウ 各いこいの家において、成年後見制度の講座を実施 7回(梶ヶ谷1月17日、高津1月18日、子母口・上作延1月20日、くじ・末長1月24日、東高津1月30日) 参加者計120名

(4) 音楽カフェ等の開催

地域の高齢者と多世代の交流促進を目的に音楽カフェ等の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

(5) 高津区敬老会の開催（祝品贈呈、功労者・寄付者表彰、実施委員会の開催）

高津市民館が新型コロナウイルス予防接種会場になっていたため、会場をてくのかわさきに移して、90歳祝の方を会場に招待し、2年ぶりに式典を開催した。併せて、区内老人クラブの功労者、地域福祉活動の功労者、多額寄付者の方への会長表彰、会長感謝を行った。

ア 高津区敬老会 9月17日

イ 実施委員会の開催 3回（6月7日、8月4日、9月17日）

(6) 福祉用具（車いす）の貸出し

区民及び福祉教育（車いす体験）のための車いす無料貸出 223件

(7) 移送サービス事業の実施（移送車による移送サービス、車両貸出し、移送ボランティア研修会・交流会の開催、運営委員会の開催）

ア 移送サービス利用件数 107件（車両貸出は0件）（※令和3年度 87件）

イ 運営委員会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

ウ 移送ボランティア交流会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

エ 移送ボランティア研修会の開催 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(8) 子育て支援事業の推進（こども子育て支援事業推進委員会の開催、子育て支援講座の開催、子育て支援グッズの貸出し）

ア こども子育て支援事業推進委員会の開催 5回（7月7日、9月21日、11月17日、1月19日、3月22日）

イ 子育て支援講座の開催 1回（2月6日）実施

ウ 子育て支援グッズの貸出し 25件（個人向け1件、機関・団体向け24件）

(9) ふれあい会食・配食、ミニデイケア実施団体交流事業の開催

会食会や配食に関わるボランティアが集い、区内の高齢者向け食事サービス活動がより活性化されることを目的に、いこいの家において高津区役所地域みまもり支援センターと共催で開催した。

ミニデイケア実施団体交流事業の開催について、3館（末長・東高津・くじ）のいこいの家で開催した。

6 団体等助成事業

(1) 共同募金配分金による地区社協交付金の交付

区内4地区社協への助成金 計3,283,000円

(2) 賛助会費の配分による地区社協への地域福祉活動費助成

区内4地区社協への助成金 計3,132,500円

(3) 年末たすけあい募金による小地域福祉活動支援事業助成（審査会の開催）

ボランティア・当事者団体等への助成金 59団体 計1,165,000円

(4) ふれあい会食・配食、ミニデイケアへの助成

- ア 会食活動に助成 13団体 計1,204,000円
- イ 配食活動に助成 0団体
- ウ ミニデイケアに助成 0団体

(5) 高津区社会を明るくする運動への助成（推進委員会への参画）

- 第71回社会を明るくする運動への助成 50,000円
- 社会を明るくする運動高津区推進委員会（5月23日）

(6) 寄附金による地域活動団体への助成（記念事業、地域包括ケアシステム推進に向けた互助活動への助成）

- 本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計130,000円

7 共同募金事業

(1) 共同募金会が実施する共同募金運動（年末たすけあい運動含む）への協力

- 神奈川県共同募金会川崎市高津区支会委員会並びに年末たすけあい運動実施委員会の開催
2回（5月27日、1月24日）

(2) 年末たすけあい配分事業（民生委員児童委員を通じての年末見舞金の贈呈、配分委員会の開催、その他配分を受けての事業実施）

- 年末見舞金の配布 630世帯・計1,890,000円
- 年末たすけあい運動実施委員会（配分委員会）の開催1回（12月6日）

8 福祉パル管理運営事業

(1) 地域福祉活動拠点としての「福祉パルたかつ」の管理運営

- 「福祉パルたかつ」の適正な管理運営を行った。

(2) 研修室、フリースペース（ボランティアコーナー）の貸出し

- 研修室A 309件、研修室B 42件、フリースペース 343件

(3) 印刷機・紙折り機等の機材の貸出し

- 印刷機は新型コロナウイルス感染防止のため予約制により貸出
- 令和5年3月からカラー印刷、ステープル対応のビジネスプリンターを導入

(4) 福祉広報物の配架・掲示

- 行政・関係機関・団体等からの広報物や福祉情報の案内等を随時配架・掲示して周知した。

9 生活福祉資金貸付事業

(2) 生活福祉資金貸付事業

- ア 相談・問合せ件数 1, 491件
- イ 区内貸付決定件数 33件

(2) 新型コロナウイルスの影響による収入減少世帯への特例貸付

- ア 相談・問合せ件数 2, 775件
- イ 区内貸付決定件数 434件

(3) 貸付調査委員会の開催、民生委員児童委員を通じたの現況調査

共同募金関係会議後に新型コロナウイルスによる収入減少世帯への特例貸付及び通常貸付について報告。現況調査は今回も神奈川県社協からの依頼が無いため実施していない。

(4) だいJOBセンター等関係機関との連携による支援

民生委員児童委員、行政の関連部署や公共職業安定所、だいJOBセンター（自立支援相談機関）等の各関係機関と連携しながら貸付相談を行い、低所得世帯等の自立促進に向けて支援した。

10 ボランティア活動振興事業

(1) 高津区ボランティア活動振興センター運営委員会・事業企画部会の開催

運営委員会の開催 1回（5月18日）、事業企画部会の開催 8回（4月11日、6月8日、7月27日、8月31日、10月17日、11月15日、1月13日、3月14日）

(2) ボランティア講座の開催

- ア 傾聴入門講座の開催（9月27日）参加者20名
- イ 災害ボランティアセンター研修会の開催（10月5日）参加者20名
- ウ 認知症講座の開催（11月9日）参加者24名
- エ 高齢者向け食事サービス団体交流会の開催（11月29日）参加者16名

(3) ボランティアに関する相談対応・情報提供

- ア ボランティア相談件数
 - （ア）ボランティア活動依頼 14件（令和3年度 14件）
 - （イ）ボランティア活動希望 20件（令和3年度 25件）
- イ ボランティア保険の利用促進

各種行事を実施する団体や、ボランティア活動を行う個人に対し、リスクマネジメントの観点より、保険のメリットについての周知および保険の利用を促した。

(4) 「たかつボランティア情報」の発行

毎月発行する高津区社協情報紙「トピックス」に「たかつボランティア情報」のコーナーを設け、ボランティア関連情報を掲載した。

(5) 寄託金の配分助成

本会会員を対象に特別記念事業への助成 3団体 計130,000円

(6) たかつボランティア・当事者連絡会等との連携・支援（交流会の開催等）

ア 第11回たかつボランティアまつりの開催（1月21日）

イ 福島原発被災地ボランティア訪問の実施（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(7) 福祉教育に関する相談対応・情報提供

ア 福祉教育に関する相談 10件

イ 体験用車いすの貸出 5件

(8) 夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習「チャレボラ2022」の実施（川崎市社協・市内他区社協・関係施設等の共催）

ア 災害ボランティア体験（7月29日）参加者15名

イ 子どもの外遊びサポートボランティア体験（8月2日）参加者2名

ウ ニヶ領用水清掃ボランティア体験（8月7日）参加者9名

エ ミニデイケアで高齢者とのふれあいボランティア体験（8月18日）参加者4名

1.1 高津区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 492件（初回相談 31件、継続相談461件）

（※令和3年度相談件数 805件／初回相談35件、継続相談770件）

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 279件（初回相談86件、継続相談193件）

（※令和3年度相談件数 145件／初回相談66件、継続相談79件）

1.2 老人いこいの家運営等事業

(1) 老人いこいの家利用人数

利用人数 50,863人（団体34,427人、個人16,436人）

（令和3年度 45,305人〔団体30,906人、個人14,399人〕）

(2) 老人いこいの家教養講座

参加人数 413回、3,757人

（令和3年度 413回、3,422人）

(3) ミニデイケアサービス事業

- ア 上作延老人いこいの家で実施 参加人数81人、ボランティア人数307人
12回(4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、9月15日、10月20日、11月17日、12月15日、1月19日、2月16日、3月16日)
- イ 末長老人いこいの家で実施 参加者数65人、ボランティア人数154人
11回(4月14日、5月12日、6月9日、7月14日、9月8日、10月13日、11月10日、12月15日、1月12日、2月9日、3月9日)
- ウ 東高津老人いこいの家で実施 参加者数57人、ボランティア人数138人
11回(5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月17日)

(4) 夜間・休日開放事業

- ア 梶ヶ谷老人いこいの家で受託。今年度利用無し。

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

- 運営委員会 10回開催
(5月20日、6月13日、7月5日、7月19日、9月27日、10月27日、11月22日、12月16日、3月3日、3月16日)

(6) 老人いこいの家管理人研修

老人いこいの家管理人の資質向上を目的として、全管理人を対象に管理人研修を実施した。普通救命講習を管理人全員が受講した。

また、防火管理者講習を新任管理人全員が受講した。

- ア 求められる対応力について(11月24日、11月25日、11月28日)
- イ 成年後見制度研修(各いこい家での成年後見制度研修に参加)、各いこいの家の施設見学(梶ヶ谷1月17日、高津1月18日、子母口・上作延1月20日、くじ・末長1月24日、東高津1月30日)
- ウ 普通救命講習 6月～12月
- エ 防火管理者講習 7月～1月

1.3 公益事業

(1) 福祉パルたかつ及び高津老人福祉・地域交流センターにおける高齢者フリーパスの販売・交付

販売実績 853件(福祉パルたかつ172件、高津老人福祉・地域交流センター681件)

(令和3年度 販売実績 802件〔福祉パルたかつ160件、高津老人福祉・地域交流センター642件〕)

1 4 災害活動関連事業（再掲）

（1）災害ボランティアセンター設置運営訓練

高津地区防災訓練（西楯ヶ谷小学校にて実施）に参加し、高津区の町会・自治会の方々に
対して、災害ボランティアセンターの活動を理解してもらえるように、パネル掲示とチラシ
配布を行い、災害時の社会福祉協議会の活動について啓発を行った。

1 5 団体事務

（1）神奈川県共同募金会高津区支会団体事務

高津区支会の事務局として、赤い羽根共同募金並びに年末たすけあい募金運動の実施、
支会委員会の開催（5月27日、1月24日）、募金の取りまとめ、配分決定等を実施

募金実績	一般募金	10,618,986円	達成率70.1%
	年末たすけあい募金	7,598,813円	達成率72.4%

（2）高津区民生委員児童委員協議会団体事務

高津区民児協の事務局として、区民児協の組織運営（総会、常任理事会、理事会、研修会
）、退任民生委員児童委員感謝状伝達式の開催、連絡調整、その他事業を実施。

1 6 その他

（1）総合相談支援（関係機関・団体とのネットワークによる支援）

相談者の問題解決に対応するため、必要に応じて行政・地域包括支援センター等の関係
機関・団体と連携して支援に努めた。

（2）行政等との協働・連携

高津区役所地域みまもり支援センターとの連携会議を定期的に行い、情報交換を行う
と共に、地域のサロン活動の支援等について協働して取り組んだ。

高津区全町内会連合会と高津区賀詞交換会を開催した。

ア 連携会議5回（4月26日、7月21日、12月2日、1月31日、3月30日）

イ 高津区賀詞交換会 1月7日 参加者250人

（3）たかつ心のパワーアップセミナーへの協力

第16回たかつ心のパワーアップセミナーの実施（5月18日）

（4）高齢・障がい・子ども子育て等関係機関・団体との連携

各種関係機関・団体との連携・協力（会議への出席、事業への協力）に努めた。

（5）行政及び福祉関係団体の事業への共催及び後援等の協力・支援

行政及び区内福祉関係団体等からの依頼に基づき、共催及び後援名義の使用を許可した。

(6) 実習生・福祉学習等の受け入れ

社会福祉士実習生1名の受け入れを行った。(8月31日～9月14日)

(7) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

地域生活支援SOSかわさき事業など市社協の各種事業・取り組みに協力した。

(8) 募金を基にしたクリスマスケーキの配布

年末たすけあい募金を基に、区内の生活困窮者世帯で小学生以下のこどもがいる世帯に対して、クリスマスケーキを配布した。(12月23日、12月24日)

川崎市宮前区社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

◆重点事業◆

1 地域福祉活動拠点の調査及び開拓

宮前区では区内に50を超えるコミュニティカフェがあり地域住民の集う拠点としての役割を担っていますが、令和4年度についても引き続き、新型コロナウイルス感染予防に伴い、区内の多くのカフェが活動を自粛せざるを得ない状況となりました。区社協が事務局を勤めている「みやまえカフェ連絡会」においては、全体連絡会を2回開催し、Zoomなどのネットワークを活用したカフェの事例発表などを実施した他、区内の各カフェに向けて、コロナ禍での開催状況の実態調査について報告しました。また、年末たすけあい募金を原資とした、福祉団体育成支援金を活用した新たなカフェ創設についての相談対応も行いました。

2 区社会福祉協議会のPR活動の強化

コロナ禍で休止していた町内会回覧板の再開を受けて、広報誌「みやまえの福祉」の回覧を再開しました。広報誌面では、社会的マイノリティの方々への理解や受容に向けた「LGBTQ」に関する啓蒙記事や、各地区社協で行っている子育て支援についての記事を掲載しました。

また、ホームページについては、新型コロナウイルス感染症による特例貸付事業の期間延長やその後の受付期間終了に伴い、随時現状の手続きに関する情報を更新・発信しました。

3 相談機能の強化・充実

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルスの影響による退職等により、収入が減少した方を対象とした緊急小口資金及び総合支援資金特例貸付の申請受付を9月末まで実施し、その相談対応を行いました。特例貸付終了後は、他機関で行っている支援制度の説明や貸付金の償還に関する相談対応を行いました。

また、日常的に電話、来所での相談対応について、川崎市社協内で「ふくし相談」と名称を統一し、相談内容の統計を整理することで、継続的な相談機能の充実と体制の見直しをはかりました。

4 新しい生活様式に即した事業の実施

新型コロナウイルスの感染状況が改善しない中、会議や研修等において、対面での開催が困難な状態が続いておりました。令和3年度地区社協役員を対象としたZoomに関する基本的な知識や体験を行う研修会を実施しましたが、令和4年度は、ボランティア団体や区民を対象としたZoom研修を、区内3箇所で開催し、対面形式での開催に限らず、ZOOM等のツールを使用した様々な形での事業のあり方を検討・実施しました。

事業報告の内容

宮前区社会福祉協議会 事業費【28,969千円】

【サービス区分事業活動支出 23,689千円】

【共同募金配分金 5,280千円】

1 宮前区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会の開催

- ・ 常任委員会の開催 3回
- ・ 運営協議会の開催 1回

(2) 正副会長会議の開催

- ・ 正副会長会議の開催 1回

(3) 種別会議の開催

- ・ 種別会議の開催 3回 ※第9種、第10種は同日同時時間帯にて開催。

(4) 賛助会員（協賛会員）の募集

社会福祉協議会活動への理解促進と活動の財政基盤を支える賛助会員増強を図るため、地区社会福祉協議会での説明会を開催の上協力を依頼、賛助会員の増加に努め、自主財源確保を図るとともに、加入者に区社協広報誌を送付する等による区社協事業の周知を行った。

(5) 各委員会の開催

ボランティア活動振興センター運営委員会、年末たすけあい運動実施委員会、「みやまへの福祉」編集委員会、みやまえ福祉フェスティバル実行委員会等の各種委員会を随時開催した。

2 調査・研究事業

(1) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

令和2年度に策定した計画について、常任委員会・運営協議会等で進捗状況報告を行った。

(2) 地域福祉活動拠点の調査・開拓

みやまえカフェ連絡会について、新型コロナウイルス感染拡大のため、全体会(2回)・役員会(3回)と実態調査を行った。

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修会の開催

常任委員会研修会を6月27日に「特別自治市制度についての学習会」を宮前区全町内・自治会連合会と共催で開催した。

(2) 区社協会員研修会（地域福祉懇談会）の開催

令和4年度については3月頃の開催を予定していたが、現会員の規定に関する確認および所属種別の整理・検討に伴う会員への案内等の手続きが必要であったことから、開催時期の見直しを図った結果、年度内での地域懇談会の開催は見送りとした。

(3) 地域住民の主体的な福祉活動促進のための福祉講座の開催

令和4年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、担当地区であった有馬鷺沼地区社会福祉協議会の講座が中止となった。

4 企画・広報事業

(1) 第21回 みやまえ福祉フェスティバルの開催

例年、お子さんからご高齢の方まで幅広い年代層の方にご来場いただき、地域とのつながりの強化や社協活動への理解促進を図る「みやまえ福祉フェスティバル」に関し、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、年度初めの実行委員会内での協議を経て、前年度同様、開催規模を縮小し、当日の参加にあたっては、事前の申込制による開催とした。地域福祉に多大なご尽力をいただいた方の功績を称えるための表彰式典および福祉の普及、理解を目的として、宮前区在住のハンセン病患者であり、当会の前・理事を務めていただいた、石山 春平氏と奥様を主演としたドキュメンタリー作品「マイ・ラブ 6つの愛の物語〈日本篇〉」の上映及び、ご夫婦と監督をお呼びしてトークショーを行った。

(2) 広報誌「みやまえの福祉及びボランティア活動情報」の発行（全4回発行）

平成29年度から、「宮前・ボランティア活動情報」と一本化し、地域の福祉情報等を総合的に掲載し、区内の福祉活動の啓発に努めている。前年度までは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、町内会自治会における回覧が中止されていたため、町内会自治会への広報誌配布を中止していたが、今年度、1月1日発行号（第88号）より、区役所担当課、町内会自治会長との相談の上、町内会自治会回覧分の広報誌の送付を再開し、改めて地域に向けた福祉関連情報の発信に努めることができた。

内容としては、事業計画に掲げる「認め合う意識づくり」の目標に向けた、LGBTQに関する紹介や地区社協が実施する子育て支援の紹介等の記事を掲載し、現状における地域福祉活動の周知と理解の促進を目的に発行した（発行部数 6月1日及び9月1日発行号 1,200部、1月1日及び3月1日号 8,200部、フルカラー印刷。主な配布先 関係機関・町内会・自治会）

(3) ホームページによる広報活動

ホームページを活用し、区社協の事業や講座の紹介、ボランティア情報の発信等地域の福祉情報を周知することにより、福祉啓発の充実を図った。また、新型コロナウイルス感染症に起因する生活困窮者に向けた生活福祉資金特例貸付に関し、令和4年9月末での申請期間の終了や、償還に関する相談窓口等の案内など、随時ホームページによる情報発信を行い、貸付の希望者や申請者に向けた適切かつ迅速な情報発信を図った。

(4) 宮前区社会福祉協議会オリジナルキャラクターによるPR活動

本会オリジナルキャラクター宮太郎のお供として活動する馬（馬絹・有馬・東有馬）を「マリーヌ」、鷺（鷺沼）を「ヌーマ」、犬（犬蔵）を「ヌーク」として、区内地名になぞられた名前をつけ、より地域に密着した親しみやすいキャラクターとして、社協活動のPRを行った。

(5) 地域情報誌や他機関の情報サイト等を活用した積極的な区社協事業PR

タウンニュースに情報提供を行うなど、区社協活動のPRを行った。

(6) SNSを活用した情報発信と情報提供の在り方を検討

令和4年度途中からの町内会・自治会の回覧は再開したものの、引き続き新しい幅広い世代や対象に向けた情報発信の在り方に関する手段として、SNSの活用方法に関する検討を行った。

5 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会事業への支援・協力

区社協職員が地区ごとに担当を持ち、地区社協事業への支援を実施した。

(2) 子育て支援事業の実施

① 子育て支援関係者連絡会への参加、協力

宮前区内の子育て支援関係者や子育て当事者グループが連携を図り、安心して子育てできる地域づくりを推進するために、子育て支援関係者連絡会に参加し、転入世帯を支援するWELCOME！みやまえキャンペーン、うえるかむクラス、子育てグループ交流会、サロン・広場等交流会の実施に協力した。前年度と比べ新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、中止となる事業は少なく、Zoomを利用した事業展開を行う等、新たな形で関係機関や団体等と協力し事業に取り組んだ。

② ふれあい動物コーナー実施

みやまえ子育てフェスタにて、例年未就学児世帯を中心とした親子のふれあいを目的に、移動動物園を実施していたが、令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため移動動物園は中止としたが、一部内容を変更し規模を縮小しての開催となったことから、その他の運営部分で協力を行った。

(3) 移送サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、高齢者や身体障がい者等、既存の交通機関の利用が困難な方に対し、運転ボランティアの方々のご協力のもと、移送サービス用車両（車いす用スロープ付き車両）2台を活用した移動支援を実施していたが、令和4年度の途中において、所有車両2台ともに車椅子搭乗用のスロープの故障により、運行を休止としていた。

その後、代替車両の購入を含めたサービスの提供に関し、役員会等で検討を重ねた結果、令和4年度をもってサービスを終了することとし、利用者への説明、年会費の返金を行うとともに、次年度以降、新たな事業展開に関し、引き続き検討を重ねていくこととした。

令和4年度移送サービス実施状況

移送ボランティア：12名

利用登録者：7名（内訳：高齢者（要介護）：1名・（要支援）：1名、身体障がい者：4名、その他（内部障害）：1名

（４）車いす貸出事業

怪我などに伴い一時的に歩行が困難となった方などを対象に、短期的かつ単発的な使用に限り、無料で利用いただくことができる車いす貸出事業を実施した。

保有車両については、自走式、介助式のそれぞれのタイプを揃え、希望に応じて、貸出を行っていたが、車両の老朽化に伴い、保有していた20台のうち、12台を買い替えるとともに、要望が多かった子ども用車いすを新たに購入し、より多様なニーズに応えることができる体制づくりを図った。

貸出のべ台数 151台

（５）買い物支援サービス事業

福祉の向上を図ることを目的に、宮前区社協会員の社会福祉法人施設の車両を使用し、運転・添乗ボランティアの協力のもと新型コロナウイルスの感染状況を見ながら運行した。

協力法人施設：社会福祉法人セイワ 介護老人福祉施設鷺ヶ峯

社会福祉法人アピエ 宮前フレンズ

社会福祉法人子の神福祉会 特別養護老人ホーム富士見プラザ

（６）医療・保健・福祉との連携

①川崎市地域ケア連絡会との連携

相談及び各種サービスを実施している機関が連携し、かつ適切なサービスの提供につながるよう、地域の要援護高齢者の福祉の向上を図ることを目的として設置されている地域ケア連絡会に運営委員として連携した。

②徘徊高齢者SOSネットワークシステムへの協力

徘徊の可能性のある高齢者の情報を事前に登録することにより、徘徊発生時の情報を関係機関に伝達し、徘徊者発見の手助けを目的とする「みやまえSOSネットワーク」に協力をした。

③障害者自立支援協議会との連携

区内障害者施設や関係機関職員で構成し、障害者の自立生活及びその周辺理解について協議し実践をすることを目的としており、その一員として連携を図った。

（７）在宅介護者支援事業

日頃の悩みや疑問を話し合い、心身のリフレッシュ・仲間作りを目的に開催している。「在宅介護者のつどい」への情報提供並びに他機関や地域に向けた広報活動の支援を行った。

6 団体等助成事業

地区社会福祉協議会をはじめ、福祉団体や当事者団体の行う自主的な福祉活動への助成を通じて、福祉活動、ボランティア活動の育成支援を行った。

(1) ふれあい活動支援事業（会食会、配食サービス、デイサービス活動）への助成

(2) 地域の福祉関係団体への活動助成

宮前区社会を明るくする運動実施委員会

宮前区子ども会連合会

7 共同募金配分金事業

(1) 共同募金運動に協力

神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会の行う共同募金運動に、各地区社会福祉協議会やボランティア団体、各関係機関等のさまざまな方の協力を得て、一般募金（赤い羽根）、年末たすけあい募金合わせて14,563,267円の実績をあげることができた。

また、令和4年度は、令和3年度において、12月1日より4日間実施した、駅頭を使用して募金呼びかけを行う、「街頭募金活動」に関し、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、引き続き感染防止対策を講じつつ、10月1日から7日までの計7日間で実施し、全32団体に参加協力をいただき、募金を行うことができた。

(2) 年末たすけあい見舞金配分事業

① 年末たすけあい見舞金配布

年末たすけあい募金を財源とした、年末たすけあい見舞金に関し、今年度申請いただいた配布対象の方、286名の方に配布を行った。（1名あたり5,000円）

② 福祉活動団体育成支援及び活動助成

年末たすけあい運動事業の一環として、宮前区内で福祉サービスを行なう11団体に向けて、総額 780,000円の助成金を交付した。

③ 当会が実施する各種事業において、配分金を活用した。

8 福祉パル管理運営事業

川崎市社会福祉協議会を通じて川崎市より福祉パルみやまへの管理運営業務を受託し、地域福祉活動の拠点施設としての運営を図った。

(1) 研修室およびフリースペースの貸し出し

研修室利用件数 418件 2,889人 / フリースペース利用件数26件 108人

(2) チラシ・ポスター等の掲示による情報提供

(3) 印刷機等地域活動に必要な機器、機材の貸し出し

9 生活福祉資金貸付事務受託事業

神奈川県社会福祉協議会より生活福祉資金制度の相談、貸付業務を受託し、低所得世帯・障害者世帯等の自立支援を図るための、貸付・償還業務を行った。

(1) 相談件数

3,413件（特例貸付含む）

(2) 新規貸し付け決定数

22件、13,975,000円（特例貸付含まず）

(3) 償還についての相談

滞納世帯の状況を確認し、今後の援助指導および償還についての相談を行った。

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた特例貸付の実施

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少があった世帯の向けの特例の緊急小口資金及び総合支援資金の貸付を行った。（申請件数287件、申請額101,750,000円）

10 ボランティア活動振興事業

相談・情報提供・連絡調整・啓発・人材養成を行い、宮前区のボランティア活動の振興を図った。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

運営委員会 3回開催

(2) ボランティアに関する相談・情報提供の実施

ボランティア相談に関する、ボランティア専門相談員を週2回配置し、ボランティア活動調整及び情報提供を迅速かつ多角的な視点を持って取り組んだ。

ボランティア活動希望30件、ボランティア依頼28件

(3) 「宮前・ボランティア活動情報」の発行

広報誌「みやまえの福祉」と一本化し、年4回、団体、施設、個人からのボランティア相談・依頼のほか、災害ボランティアや福祉情報を掲載し、区内のボランティア活動の啓発に努めた。

(4) 福祉教育事業の推進

① 小中学校の福祉教育授業への協力

(ア) 区内小学校・中学校の福祉教育授業へ車いす等の貸出

(イ) 講師の紹介

② 関係施設・機関等の研修への協力

(ア) 区内関係施設・機関の研修への車いす等の貸出

(5) 福祉啓発、ボランティア人材発掘を目的とした講座・セミナー等の開催

①Zoomの使い方研修※同内容を3会場に分けて実施

日 時	会 場	内 容	参加者数
R5. 2. 9(木)	野川老人いこいの家	【講義】 Zoomの特徴、準備、環境の設定等 【体験】 ミーティング情報の入手・参加、音と映像の設定等 《講師》 みやまえエコー	7名
R5. 2. 22(水)	福祉パルみやまえ		11名
R5. 3. 8(水)	向丘出張所		10名

②ボッチャ体験教室※2日間コース

日 時	会 場	内 容	参加者数
第1日目 R5. 2. 13(月)	宮前市民館	【講義】 ・ボッチャの基本知識、ルール等 【体験】 ・チーム対抗戦等 《講師》 障がい者福祉施設 れいんぼう川崎職員	14名
第2日目 R5. 2. 27(月)			11名

(6) 夏休みの福祉体験講座「チャレボラ2022」の開催

①視覚障がい者へのお手伝い！声掛け誘導體験

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 7. 27 (水)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・白杖ユーザー ・ガイドヘルパー ・PCサポートの会 	4名

②福祉の目でまちを点検！車いす介助体験【福祉マップ作り】

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 7. 29 (金)	福祉パルみやまえ～ 宮崎台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすユーザー ・NPO法人川崎介護福祉士会 	4名

③障がい者施設でボランティア！ボッチャを通じて利用者さんと交流！！

日 時	会 場	協 力	参加者数
R4. 8. 5 (金)	福祉パルみやまえ	<ul style="list-style-type: none"> ・れいんぼう川崎 ・中部日中活動センター 	6名

(7) ボランティア活動等保険の取扱い

ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人となり、全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約の窓口業務を行った。

令和4年度保険加入件数459件

1 1 宮前区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業に関わる相談

相談件数 958件 (初回相談42件、継続相談916件)

(※令和3年度相談件数 1,092件 / 初回相談39件、継続相談1,053件)

(2) 成年後見制度の概要や申立手続きに関わる相談

相談件数 278件 (初回相談130件、継続相談148件)

1 2 老人いこいの家運営等事業

指定管理者として宮前区内5箇所(5館)の老人いこいの家(長寿ケアホーム)の管理・運営を行った。

(1) 老人いこいの家運営委員会の開催

運営委員会開催数 (5館) 10回

(2) 管理人研修会

2回実施、22名参加

(3) 老人いこいの家年間利用者数の状況

年間利用者数 (5館) 37,350人

(4) 教養講座の実施

教養講座実施回数、参加者数 (5館) 延べ107回、1,142人

(5) ミニデイケア事業の開催状況 (3ヶ所)

参加人数 計 126人 ・ ボランティア数 計 157人)

(6) 夜間・休日等施設開放事業 (1ヶ所)

利用人数 計 801人

1 3 公益事業

(1) 高齢者外出支援事業(高齢者フリーパス交付)の実施

高齢者の社会活動への参加を促進し、福祉の増進を図ることを目的に川崎市高齢者フリーパスを交付した。(対象者:70歳以上の方に「川崎市高齢者フリーパス」を交付(有料)し、バスに乗るときにフリーパスを提示して乗車)

令和4年度においては、今まで紙面にて発行していたフリーパスに関し、10月よりICカードへの切り換えを図ることとなり、川崎市との連携のもと、窓口における手続き案内、周知を行った。郵便局等、手続きにあたっての窓口の増設に伴い、市との協議の結果、年度内をもって取り扱いが終了することになったことから、対象者に不便が生じないよう、広報誌による案内や

HPへの掲載、窓口でのチラシの配布を行い、移行手続きが滞りなく終わるよう、配慮に努めた
令和4年度交付枚数3,166枚

1 4 災害活動関連事業

(1) 災害ボランティア活動の啓発

令和4年度については宮前区で実施した総合防災訓練に参加し、災害ボランティアセンターの設置訓練と災害ボランティア活動に関する啓発を行った。

(2) 災害対策・事業関連における関係機関との連携強化

宮前区地域防災連絡会議全体会議などに参加した。宮前区で実施した総合防災訓練に際して、宮前区で災害ボランティアセンターが設置される予定の宮前市民館と複数回打合せをし、情報共有を行った。

1 5 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会川崎市宮前区支会への協力（再掲）

(2) 宮前区民生委員児童委員協議会

(3) みやまえカフェ連絡会「まいCaféみ～や」

新型コロナウイルス感染拡大のため、役員会（2回）と実態調査を行った。

(4) 関係団体の事務協力

1 6 その他

(1) 宮前区賀詞交換会の共催

令和5年賀詞交換会は新型コロナウイルス感染防止の観点から内容を変更し、管弦四重奏演奏を聴く会として実施した。

(2) 関係機関主催の会議、事業への参加、協力

(3) 川崎市社会福祉協議会の事業への協力

(4) その他、本会の目的を達成するために必要な事業の実施

川崎市多摩区社会福祉協議会 令和4年度事業報告

◆重点事業◆

I ICTを活用した講座・研修会の実施

小中学生や大学生を対象として夏休みにボランティア活動を体験するチャレンジボランティアを開催し、新型コロナウイルス感染防止のため高齢者施設とオンラインでの交流をしました。

また川崎市の実施する高齢者のスマホ講座に協力し、参加者の募集や老人いこいの家会場としての提供を行いました。

II 大学生と高齢者の交流事業の実施

老人いこいの家3館（登戸、枳形、菅）で、専修大学の学生が高齢者にスマートフォンの操作を教えながら交流をする多世代交流事業を実施しました。今後は全館で実施できるよう、区内の他の大学の学生にも参加を呼びかけます。

III おしゃべりサロン「いちにのさん！」の実施

長尾老人いこいの家で、新たに多世代交流事業おしゃべりサロン「いちにのさん！」を開始しました。ボランティアスタッフの募集・講師の調整・事業の周知・参加者の募集を行い、毎月1回の開催としてボランティアスタッフや地域の方々と協力して運営を行いました。

IV 終活支援事業の実施

令和元年度から、老人いこいの家の公開講座として終活をテーマとした講座を5館で開催してきましたが、今年度は新たに2館のいこいの家を加え全館での開催としました。今後は対象を高齢者だけではなく家族にも広げるとともに、「ふくし寄合処たま」での話し合いのテーマとしても取り上げます。

V 成年後見支援センター事業の推進

令和3年7月に川崎市から成年後見支援センター事業を受託し事業を開始しました。広報活動を積極的に行い、多摩区社会福祉協議会常任委員会の研修会をはじめ、多摩区民生委員児童委員協議会や地域包括支援センターなどの関係機関への出張講座を実施しました。本年度の実績としては、年間で延べ165件の相談を受けて152回の支援を行いました。

事業報告の内容

多摩区社会福祉協議会 事業費【32,864千円】

【サービス区分事業活動支出	23,211千円】
【共同募金配分金	9,653千円】

1 多摩区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、運営協議会、正副会長会議の運営

- ア 常任委員会の開催 3回（他、書面による意思確認1回 9月21日）
5月25日、12月19日、2月27日
- イ 運営協議会の開催 2回
6月2日、3月2日
- ウ 正副会長会議の開催 1回
2月15日

(2) 一般会員、賛助会員、協賛会員の募集

令和4年度は119団体が継続して会員となりました。

また、賛助会員の募集については、コロナ禍で社会福祉協議会の多くの事業が中止となり支出が抑えられたため、令和4年度の賛助会員募集では例年の個別訪問は行わず、口座振込や福祉パルへの持参による募集としました。募集時期は1月から3月までの3か月間で実施しました。

（実績 賛助会員(件数) 449件 賛助会費 815,000円）

さらに、自主財源確保のための各種会員募集・寄附金募集では、広報紙や区社会福祉協議会ホームページを活用した広報活動を行いました。

2 調査・研究事業

(1) 地域福祉活動計画の進行管理

令和4年度は事業計画で掲げた5つの重点事業を中心に事業を展開しました。ICTを利用した事業や多世代交流事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して実施しました。いこいの家での終活講座は令和4年度で全館終了したので、今後は寄合処の話し合いのテーマとして取り上げる他、川崎市社会福祉協議会あんしんセンターの終活支援事業につながるよう情報提供をしていきます。また、成年後見支援センター事業は広報活動に重点を置いて事業を展開しました。今後も支援事業につながるよう、広報を充実させていきます。

(2) 種別会議等によるニーズ調査

第5種会員種別会議の中で令和4年度の賛助会員募集について検討しました。その結果、各地区社会福祉協議会ではコロナ禍で各種事業が実施できず、繰越金額が多くなっているため、令和4年度は地区社会福祉協議会関係者（町会自治会、民生委員児童委員等）の訪問等による賛助会員募集は行わないことになりました。その上で、令和4年度は機関

紙による広報と振込み又は区社協窓口での受付による賛助会員の募集方法を試行しました。

(3) 多摩区社会福祉協議会役員研修会の開催

常任委員会委員を対象として、5月に成年後見制度、2月には新型コロナウイルスの影響に関する生活福祉資金特例貸付制度の事例に基づく研修会を行いました。

3 企画・広報事業

(1) 広報紙「区社協だより多摩」の発行

区社会福祉協議会の事業活動の紹介や、関連する福祉情報の提供を行うとともに、広く社会福祉に関する啓発を行うため、広報紙「区社協だより多摩」を年4回発行しました。

広報紙は、区社会福祉協議会会員や関係機関等への配布と併せ、多摩区内の町会・自治会での回覧（年3回）とタウン誌の一部ページを買い取った形での掲載（年1回）を行いました。さらに、ホームページへの掲載や音声版広報紙の作成により、多くの区民への情報提供を行いました。

(2) ホームページ、フェイスブックの運営

ホームページでは、広報紙「区社協だより」「たまぼら」「各地区社協だより」。ボランティアの募集、老人いこいの家の月間予定、おしゃべりサロン「いちにのさん！」等の情報の更新・発信や多摩老人福祉センターからのお知らせなどを行いました。

また、生活福祉資金の新型コロナ特例貸付の制度変更・受付終了等の新着情報等、随時情報を掲載しました。

さらに、高齢者フリーパスのIC化の事務や福祉パルでの販売窓口終了等の周知も行いました。

(3) 第15回多摩区社会福祉大会の開催による啓発活動

社会福祉に関する啓発活動を広く行うとともに、多年にわたり地域福祉に貢献された個人及び団体に感謝を表することを目的として、地区社協、町会・自治会、民児協、老人クラブ、ボランティア・当事者団体、その他関係機関の協力のもと、第15回多摩区社会福祉大会を開催しました。

第1部の記念式典では、3名へ感謝状の贈呈を行い、第2部では、地域福祉の啓発のため映画「体操しようよ」を上映し、多くの地域住民の方々にご参加いただきました。

なお、今回は新型コロナウイルス感染防止対策として事前申込制での開催としました。

(4) 多摩区民祭参加による啓発活動

「第45回多摩区民祭」への助成を行うとともに、募金活動やパネル展示、広報紙の配布等、PR活動による参加・協力を行いました。

4 地域福祉活動事業

(1) 地区社会福祉協議会活動の支援

区内の5つの地区社会福祉協議会が主体的に地域福祉活動に取り組めるよう支援を行うとともに、相互の連絡調整や連携のための地区社会福祉協議会会長会議を開催し、当該会議においてコロナ禍での各地区社会福祉協議会の活動に関する情報交換や、賛助会員募集についての検討を行いました。

(2) おしゃべりサロン「いちにのさん！」の実施

令和4年度から新たに、多世代交流事業のおしゃべりサロン「いちにのさん！」を実施しました。月1回、原則第4水曜日に長尾老人いこいの家を会場として開催しました。

地域のスーパーや飲食店、保育園等へのチラシの掲示・配架の依頼、ホームページ・地ケア広報紙等への掲載などによる広報に努めました。また、リピーターによる口コミ等でも参加者が増えました。

(3) 車椅子の貸出

障害や高齢、病気やけが等で外出が困難な区民の生活上の便宜を図り、社会参加を促進するため、車椅子を延べ204台貸し出しました。

また、車椅子を管理していく上では、傷害保険・賠償責任保険に加入するとともに、破損や劣化が見られる物については随時メンテナンスを行いました。

5 団体等助成事業

(1) 地区社会福祉協議会への助成

賛助会費を原資とした「地域福祉活動費助成」や共同募金配分金を原資とした「育成交付金」、「福祉活動助成金」などの助成事業により、地区社会福祉協議会が実施する地域福祉活動の支援を行いました。

(2) 寄付金を財源とした当事者団体、ボランティアグループへの助成

寄付金品を受入れ、「助成金配分委員会」を開催し、第9種会員（障害者等当事者団体）、第10種会員（ボランティアグループ）への配分を行いました。

(3) 高齢者ふれあい活動支援団体への助成

会食会、ミニデイサービス活動、配食サービスを対象とした「ふれあい活動支援事業助成」等の助成事業を通じて、在宅福祉活動の支援を行いました。

また、多摩区内の高齢者ふれあい活動実施団体を対象とした交流会を開催しました。

6 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動

を推進しました。

共同募金（一般募金）実績額 11,527,088円

年末たすけあい募金実績額 6,979,097円

(2) 共同募金配分事業の実施

神奈川県共同募金会からの配分金を各地区社会福祉協議会に育成交付金として交付するとともに、地域福祉の推進のために開催される行事への助成を行ったほか、本会が行う各種事業に充当して有効に活用しました。

一般募金配分金額 1,496,567円

年末たすけあい募金配分金額 6,455,568円

ア 区内在住の福祉ニーズを持つ世帯への年末慰問金の交付

年末慰問金を申請した福祉的ニーズを持つ世帯への交付について、年末たすけあい配分委員会において交付額等を検討し、615世帯に年末慰問金2,460,000円（1世帯4,000円）を交付しました。

イ 福祉車両の貸出事業の実施

障害や身体機能の低下等で、公共交通機関による移動が困難な方を対象に「福祉車両貸出しサービス」を実施し、令和4年度は23件の利用がありました。

ウ 子育てグループ交流会の実施

子育て関係者のつながりを築くために多摩区内3団体の母親クラブを対象とした交流会を開催しました。交流会では、活動内容等の情報交換等により、区内での子育て支援活動が安定して進められるよう支援を行いました。

エ 地域福祉貢献事業の起業グループへの助成

地域福祉活動の立ち上げを支援する地域福祉貢献事業の起業助成事業については、今年度は1件の申請がありましたが、要件を満たさず助成には至りませんでした。

オ 福祉関係団体、行事への助成（母親クラブ、社会を明るくする運動、多摩ふれあいまつり、たまたま子育てまつり）

多摩区内の3つの母親クラブの活動を支援するため、1クラブ5,000円の助成を行いました。

また、社会を明るくする運動に60,000円、多摩ふれあいまつり及びたまたま子育てまつりには200,000円の助成を行いました。

カ 広報紙「区社協だより多摩」の発行

キ ホームページの運営とフェイスブックの活用

ク 第15回多摩区社会福祉大会の開催

ケ 多摩区民祭参加による啓発活動

コ 地区社会福祉協議会への助成

サ 大学生と高齢者との交流事業の実施

シ 各種ボランティア講座の開催

ス 福祉教育の推進

セ 総合防災訓練等での災害ボランティアセンターの周知活動

(※カ～セは他の事業項目にも掲載)

7 福祉パル管理運営事業

(1) 研修室、ボランティアコーナーの貸出し

川崎市から「福祉パルたま」の管理運営業務を受託し、地域福祉活動・ボランティア活動の拠点施設として、研修室およびボランティアコーナーの利用提供を行いました。

	年間利用件数	年間延べ利用者数
研修室	4 1 5 件	5, 5 4 7 人
ボランティアコーナー	1 6 0 件	6 2 0 人

(2) 印刷機等の機材、機器の貸出し

福祉関係団体や町会自治会などに対し印刷機や折り機の貸出を行いました。

	年間利用件数
印刷機(印刷室)利用	3 7 3 件

(3) 情報コーナーを活用したチラシ等の配架とポスター等の掲示による広報活動

関係機関、団体から送られるチラシやポスターを配架・掲示し、来館者への情報提供に努めました。

8 生活福祉資金貸付事業

令和2年3月25日から開始した新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付制度は、令和4年9月30日まで制度延長となりました。生活福祉資金については、延5, 459件の相談を受け、総合支援資金特例貸付申請を含め398件の申請（申請額は、133, 025, 000円）を受付けました。貸付け対象とならなかった相談については、他機関の紹介や他制度の情報提供等を行いました。

また、生活福祉資金貸付件数などの実績報告を行っている生活福祉資金貸付調査委員会は令和4年度は開催せず、多摩区民生委員児童委員協議会常任理事会のほか、地区社協会長会議等で特例貸付の周知や実績件数の報告を行いました。また民生委員児童委員の改選があったため、地区民児協定例会にて、事業説明を行いました。

なお、滞納世帯への償還支援については、相談者に対して償還方法を案内するとともに、償還免除、償還猶予対象者については当該手続きの案内を行いました。また、償還事務を担当する県社協に協力し、県外転居者の住所調査を行い報告を行いました。

9 ボランティア活動振興事業

(1) 多摩区ボランティアセンターの運営

多摩区ボランティアセンター運営委員会を年4回開催し、各部会報告（講座部会、相談・情報部会）や、運営委員研修会、災害ボランティア等について話し合い、事業を推進しました。

また、講座部会では、ボランティア入門講座を年2回実施しました。相談・情報部会では、ボランティア情報誌「たまぼら」を年3回発行しました。

(2) ボランティア相談会「たまぼらひろば」の開催

パサージュ・たまでの出展については、前年度に引き続き令和4年度も出展数が制限をされていることから開催を見合わせました。また、パサージュ・たま以外の場所での開催についての検討も行いながら、次年度の再開に向けての準備を進めました。

また、区民・関係機関等からの相談については、多摩区ボランティアセンター運営委員会に報告し、ボランティアニーズの共有化を図りました。

＜年間相談件数＞

- ・ボランティアをしたい方の相談： 15件
- ・ボランティア受け入れ希望者の相談： 22件

(3) ボランティア情報誌「たまぼら」の発行と区社協ホームページの活用によるボランティア情報の発信

ボランティア活動に対する様々な情報の提供を通じて、ボランティア活動への理解や関心を高めることを目的に、ボランティア情報誌「たまぼら」を年3回発行し、区内の関係機関やボランティア活動希望者に送付するとともに、区社会福祉協議会のホームページにも内容を掲載しました。

また、区社会福祉協議会ホームページでボランティアグループの紹介や、ボランティアの募集情報の発信を行いました。

(4) 大学生と高齢者の交流事業の実施

令和4年度は、「大学生と高齢者の交流事業」をすすめ、専修大学の学生の協力を得て、区内老人いこいの家で大学生が高齢者にスマートフォンの操作を教える講座を3回（12月、2月、3月）実施しました。

(5) 各種ボランティア講座の開催

ボランティア活動を始めるきっかけ作りの入門講座として9月22日に「車いす体験講座」を開催したところ、17名の参加がありました。2月25日にはボランティア入門講座「あなたの想いが地域を育む」を開催し、25名の参加がありました。

なお、毎年全市で実施している「夏休み福祉・チャレンジボランティア体験学習《チャレボラ2022》」は3年ぶりに開催され、多摩区では「高齢者施設でボランティア体験をしてみよう！」「ボッチャで障害者スポーツ体験をしてみよう！」「車いす、高齢者疑似体験、白杖体験をしてみよう！」の3つのプログラムを実施し、子ども19名、保護者5名が参加しました。

(6) 福祉教育の推進

区内の小学校での総合的な学習としての福祉学習、関係機関や企業での福祉に関する研修等の相談に対して、学習や研修のプログラム作成への助言、講師の紹介、福祉用具

の貸出しと、関連情報の提供を行いました。また、福祉教育推進の方向性や課題を検討し実施する福祉教育推進委員会を3回、福祉教育セミナーグループ会議を5回、福祉教育サポートグループ会議を4回開催し、福祉啓発を目的とした事業の取り組みについて話し合いを行いました。

ア 福祉教育に関する相談支援

相談件数 19件（小学校13件、その他6件）

対応件数 37件（相談1件について複数対応あり）

イ 教職員と福祉学習支援者との交流会の開催

区内の教職員と福祉学習に携わっている方が交流できる場を設け、今後の福祉学習につながる機会をつくりました。

ウ 福祉教育セミナー、親子参加型福祉講座の開催

区域版福祉セミナーとして「発達障害って何だろう？」を2月27日に開催し、42名が参加しました。

親子参加型福祉講座は12月10日に「きこえないってどういうこと？親子で手話体験！！」を開催し、56名（子ども30名、親26名）が参加しました。

エ 福祉教育ハンドブックの周知と効果的な活用の検討

福祉教育ハンドブック第5版の活用を区内の学校や関係機関に促しました。

オ 福祉教育用福祉用具の貸出し

貸出件数 41件

カ ホームページを活用した福祉教育推進に向けての情報発信

10 多摩区あんしんセンター事業

(1) 日常生活自立支援事業

高齢者や障害者で、福祉サービスの利用契約や日常的な金銭管理を行うことに不安のある方が地域で自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理、書類等の預かり等のサービスを提供しました。

(2) 成年後見制度利用促進事業

川崎市成年後見支援センター事業（川崎市からの受託事業）として、成年後見制度の利用促進に関する事業を行いました。

認知症や知的障害、精神障害等によって判断能力が不十分になった方が、自身の権利や財産を守り、安心して暮らせるように、成年後見制度の利用に関わる相談・支援を行いました。

相談件数（延べ） 165件

支援件数（延べ） 152件

多摩区社会福祉協議会役員研修会、地区民生委員児童委員協議会研修会（登戸地区、生田東地区）、相談支援・ケアマネジメント調整会議（登戸地域包括支援センター主催）にて、成年後見制度の出張講座を行いました。

1 1 老人いこいの家運営事業

(1) 区内7館（登戸、菅、錦ヶ丘、長尾、枳形、中野島、南菅）老人いこいの家の管理運営

川崎市の運営方針に基づき、感染拡大防止対策を徹底しながら運営を行いました。

例年実施していた利用団体の活動を発表する場としての講座発表会は、新型コロナ感染拡大防止のため、今年度は作品展示会と活動見学会を開催しました。また、こども世代との交流事業は、3密にならないように配慮し、登戸・長尾・菅・錦ヶ丘・中野島・枳形老人いこいの家で実施しました。

団体利用者数 33,634名（利用団体数 4,441団体）

個人利用者数 10,587名

(2) いこいの家公開講座の開催

地域の方々に老人いこいの家を周知し、利用を促進するためのきっかけ作りとして公開講座を開催しました。「終活ってなんだろう!」「コグニサイズで認知症予防」「ボッチャを体験してみよう!」「筆文字で年賀状作り」「絵手紙をやってみよう」というテーマで企画し、地域の企業の方・川崎市役所の方に講師を担っていただき、単発開催・複数開催するなど新型コロナ感染症予防の工夫を行いながら開催しました。

(3) 多世代交流事業の実施

老人いこいの家での多世代交流は、新型コロナウイルス感染対策を取りながら実施しました。

こども文化センターと合築になっている長尾老人いこいの家では、裏庭に畑をつくり、高齢者が子どもたちに指導を行うことで、夏野菜を育て収穫を行いました。菅老人いこいの家では、夏休みを利用し高齢者と子どもたちが参加する「うちわ作り教室」や高齢者が踊りを披露し子どもたちにも教えるお楽しみ交流会を開催しました。

単館の登戸老人いこいの家では中野島こども文化センターとの交流を行い、高齢者と子どもたちがストローを使ったとんぼ作りや、ボードゲームのマンカラを一緒に行いました。

長尾老人いこいの家では、乳幼児の子育て世代と高齢者が共に過ごせるおしゃべりサロンを毎月開催しました。

また、登戸、菅、枳形老人いこいの家では、専修大学の協力により、大学生にスマートフォンの操作を聞く交流会を開催しました。

(4) 「ふくし寄合処たま」（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の開催

誰でも気軽に来られる居場所と相談機能を兼ね備えた「ふくし寄合処たま」を、区内5館（登戸・長尾・中野島・南菅・錦ヶ丘）の老人いこいの家で毎月1回開催しました。

地域包括支援センターなどの関係機関と共に地域の方々からの相談を受ける中で、地域の福祉的ニーズを把握し、課題解決に努めました。

(5) 老人いこいの家運営委員会の開催

7館すべての老人いこいの家で、新型コロナウイルスの感染対策を取って運営委員会を開催しました。

(6) 管理人、臨時職員研修会の開催

老人いこいの家の管理人を対象に、AEDの使用方法を含む救命救急講習および認知症サポーター養成講座を実施しました。前年度と今年度の実施で管理人全員が受講することができました。

(7) 登戸、菅、中野島老人いこいの家でのミニデイケアサービス事業の実施

川崎市からの受託により、区内3館（登戸・菅・中野島）の老人いこいの家で、地区社会福祉協議会やボランティアグループによるミニデイケアサービス事業を実施しました。新型コロナウイルス感染対策をしながら、登戸いこいの家は4月、中野島いこいの家は5月、菅いこいの家では12月（菅会館を会場に6月）から再開しました。

1 2 公益事業

(1) 川崎市高齢者フリーパスの販売

川崎市から川崎市高齢者外出支援乗車事業を受託し、川崎市高齢者フリーパスを年間2,714件（うち福祉パス284件）販売しました。

なお、本事業は令和4年度末で川崎市からの受託が終了しました。

1 3 災害活動関連事業

多摩区役所が実施する小学校を会場とした総合防災訓練で、災害ボランティアセンターの周知活動を行いました。今年度の総合防災訓練は、11月6日に南生田小、12月10日に長尾小で開催され、述べ269名（南生田小169名、長尾小100名）に災害ボランティアセンターのチラシを配布し、災害ボランティアセンターに関連したパネルクイズを実施しました。

なお、自然災害による被災地への支援活動の周知（共同募金会を通じた支援）については、掲示板を利用して随時行いました。

1 4 団体事務

(1) 神奈川県共同募金会多摩区支会としての募金活動の推進

神奈川県共同募金会川崎市多摩区支会として、各地区分会と協力し区内の共同募金運動を推進しました。（「6 共同募金事業」の再掲）

(2) 多摩区民生委員児童委員協議会への協力支援

区内の各地区民生委員児童委員協議会の連携を目的とした多摩区民生委員児童委員協議会の事務局を担い、地域福祉活動の推進に深く関わる民生委員児童委員活動への支援を行いました。

(3) 多摩区当事者・ボランティア連絡会「たまわかくさ」への協力支援

区内を拠点に活動している福祉当事者や、ボランティアグループ等で組織している「たまわかくさ」の事務局として、運営委員会や研修会等の実施を支援するとともに、活動経費の助成を行いました。

15 その他

地域の福祉関係機関・団体との円滑な連携関係を構築し、地域における福祉的課題の把握に努めました。

令和5年3月13日には川崎市社会福祉協議会と共同で実施する「地域生活支援SOSかわさき事業令和4年度多摩区連携ネットワーク会議」を開催して、地区社会福祉協議会と多摩区内の社会福祉法人施設の連携の場を作りました。

また、「食糧支援かわさき」については、昨年度に引き続き区社協会員や関係団体等に呼びかけて食糧の寄贈を受け、食糧を必要としている世帯へ渡しました。(多摩区社協取り扱い件数：延べ19件501食)

社会福祉士相談援助実習の受け入れについては、8月31日から9月14日までの期間、実習生1名を受け入れ、研修プログラムを作成し実習を行いました。

なお、多摩老人福祉センターとの連携については、老人福祉センターが実施する講座や行事の開催を、いこいの家や福祉パルたまでチラシの配布やポスター掲示を行うなど、広報の協力をいたしました。

川崎市麻生区社会福祉協議会

令和4年度 事業報告

◆重点事業◆

1 区民の福祉や社会福祉協議会への理解を促進するための効果的な広報・啓発事業の展開

広報紙の配布については、タウンニュース紙の一面掲載や区内新聞折り込みを活用した広報方法の工夫により区民への福祉情報の発信に努めました。また、新型コロナウイルスの影響で3年振りの開催となった「第33回あさお福祉まつり」は、今年度より麻生区役所との共催事業として実施しました。麻生区制40周年記念冠事業にも位置づけられ、「コロナ禍でもつながりを絶やさない麻生区の地域福祉活動」を区民に向けて周知し、福祉や社協への理解を広めました。

2 地区社会福祉協議会を中心とする住民主体の小地域福祉活動の支援及び地域包括ケアシステムの構築に向けた地域力向上の取り組み

地区社協の自主的・主体的な活動と運営の充実・発展のため、地区社協の役員等と共に考え、コロナ禍で急速にニーズが拡大した高齢者のデジタル支援活動など、地区社協や関係機関等との協働事業への支援を行いました。事業委員会では、子育て支援委員会による子育てグループ等交流会の開催等、小地域福祉活動における感染防止対策に関する学習や情報提供の機会づくりに努めました。

3 ボランティア活動振興センター事業（福祉教育を含む）の充実強化

区内のボランティア活動や当事者活動と連携し、誰もが気軽にボランティア活動に参加できる機会づくりの支援に努めました。「ボランティア講座」は、新たな取り組みとして、活動のテーマ（分野）に基づいた講座を企画・実施しました。今年度は「子ども食堂」をテーマに、食を通じた多世代交流型の居場所づくり活動の促進を図りました。福祉教育推進では、講師派遣や体験の受入れ調整等、学校の福祉教育を支援しました。

4 区社協自主財源確保のための取り組みの強化

賛助会費は、麻生区内の小地域福祉活動を支える貴重な資金であることから、町内会・自治会のご理解のもと、強化月間を従来の2月を募集期間とするとともに、コロナ禍や各町会・自治会の事情に合わせて募集していただくなど、柔軟に実施しました。

5 コロナ禍をふまえた今後の麻生区社会福祉協議会のあり方についての検討

長引くコロナ禍における区社協事業の実施にあたり、感染防止策の徹底、実施方法の見直しや工夫を図り取り組んでまいりました。今後も区社協事業を継続するために、財源確保策とその合理的・効果的な活用方法、経営基盤強化について、次年度も引き続き検討を進めてまいります。

事業報告の内容

麻生区社会福祉協議会 事業費【30,163千円】

【サービス区分事業活動支出 25,509千円】

【共同募金配分金 4,654千円】

1 麻生区社会福祉協議会運営事業

(1) 常任委員会、正副会長会議、運営協議会（会員意見交換会）の開催

ア 常任委員会の開催 5回

(5月26日、6月28日、9月2日、10月27日、2月16日)

イ 正副会長会議の開催 2回

(5月17日、2月7日)

ウ 運営協議会（会員意見交換会）の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止（書面報告）

(2) 賛助会員募集

2月を賛助会員募集の強化期間とし、町会・自治会等の協力を得て、区社協・地区社協の趣旨や活動に賛同し、支援をしていただける賛助会員の増強に努めました。

賛助会費は、1口1,000円を基本とし、協力をいただきました。

令和4年度募集	賛助会員数	金額
実績合計	2,628名	5,866,750円
麻生東地区	1,629名	2,558,700円
柿生地区	999名	3,308,050円

(3) 寄託金

令和4年度一般寄附 1,162,830円（寄託品で決算上金銭換算したものを除く）

(4) 寄託品

令和4年度寄託品 なし

(5) 各事業の効果的な連携（総合相談支援）

ボランティア相談、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談の他、福祉にかかわる様々な相談等、支援を必要とする方への総合的な相談支援を区社協の各部署や行政、相談機関と協力連携して対応しました。

2 調査・研究事業

(1) 第4期麻生区地域福祉活動計画の推進

コロナ禍の社会情勢により対応や工夫を適宜行い、地域福祉活動の担い手不足に関する養成

講座や防災に関する基本的理解、地域のつながりの強化等を中心に「第4期麻生区地域福祉活動計画」を推進しました。

(2) 種別会員会議の開催

令和5年5月31日をもって任期満了を迎える区社協の常任委員会・委員会の委員候補者選出に向けた種別会員会議を開催しました。

- ア 第6種会員（公立・民間社会福祉施設） 3月17日
- イ 第9種会員（当事者団体） 3月7日
- ウ 第10種会員（ボランティア団体） 3月7日
- エ 第11種会員（福祉関係団体・機関） 3月7日

3 研修事業

(1) 区社協常任委員研修の開催 ※区社協会員研修と兼ねて開催

開催日	場 所	内 容	参加者数
令和5年 3月7日	麻生区役所 第1会議室	コロナ禍における高齢者のデジタル活用支援～地区社協、地域包括支援センター、大学による多機関連携の取り組み～	常任委員参加 17名 区社協会員研修参加 39名

(2) 区社協職員研修の実施

各職員の職制や担当業務に応じた市社協職員研修や外部研修等に参加しました。

4 企画・広報事業

(1) 第33回あさお福祉まつり事業

区内の福祉活動に関わるボランティア・当事者・施設・団体の活動を広く区民に周知し、区民の福祉への理解と関心を高めることを目的に、第33回あさお福祉まつりを今年度より麻生区との共催事業として開催しました。

コロナウイルス感染の影響により、飲食の販売はせず、規模を縮小し実施しました。

地域の「協働」と「参画」を基本とし、第33回あさお福祉まつり実行委員会を組織し、参加団体の協力を得て開催しました。実行委員会と参加団体が主体となる運営を目指して、事前準備から当日の運営までを具体的に役割分担し、実施しました。

(2) 広報啓発委員会の開催

ア 広報啓発委員会 1回（1月23日）

イ 「親子福祉探検隊」の開催

コロナウイルス感染の影響により、安全の確保が難しい状況ため、令和3年度に引き続き開催を中止しました。

ウ 広報紙「ほほえみ」の発行

コロナウイルスの影響により、年間2回の発行に変更し、79号はタウンニュース紙1面掲載による発行、80号は新聞各社の折り込みで配布しました。

エ こどもや若い世代への福祉啓発

ボランティア活動振興センターの福祉教育推進事業と連携し、コロナ禍で講師派遣が難しい中、こども新聞等、体験学習用スライドやDVDを用いて福祉啓発を行いました。

オ ホームページの管理運営

区社協ホームページにより、区民に向けて、福祉団体のボランティア募集情報、地域の福祉情報、社会福祉協議会の事業などについて、随時発信しました。

カ 区社協の認知度を上げるための広報啓発の推進

3年振りに開催された、あさお区民まつり、第33回あさお福祉まつりにて、区社協事業の紹介パネルや公式キャラクター「キューちゃん」を使用したバックスクリーンを用いて、区社協のPRを行いました。

(3) 地域のイベントへの参加協力

ア あさお区民まつり 10月9日

5 地域福祉活動事業

(1) 小地域福祉活動の推進

小地域福祉活動の推進は、活動の主たる担い手である麻生東地区社協、柿生地区社協の運営を支援し、地区社協による主体的な活動が促進されるように働きかけを行いました。

(2) 関係団体・機関等との連携、各会議等に参加

区役所、福祉施設、地域包括支援センター及び教育機関等が主催する各委員会、会議に参加しました。

(3) 車椅子・福祉用具の貸出事業の実施

ア 車椅子の貸出（件数）	300回
イ 福祉器具の貸出（件数）	323件

(4) 移送サービス事業の実施

区内在住で、車椅子利用や歩行困難などにより移動が困難な方に対して、外出の機会や社会参加を支援するため、福祉車両「キューちゃん号」による移送サービス事業を実施しました。

本事業は川崎市社会福祉協議会麻生区支部として道路運送法による福祉有償運送登録のうえ実施しています。

ア 賛助会員数	9名
イ 運転ボランティア登録数	8名
ウ 利用件数	79件
エ 運営委員会の開催	
オ 運転ボランティア定例会の開催	

6 団体等助成事業

(1) 地域福祉活動への助成

麻生東地区社協 1, 876, 090円

柿生地区社協 2, 580, 635円

(2) ボランティアグループ等活動助成事業

地域のボランティアグループや当事者団体の自主的な活動を支援するため、その活動に対して必要経費の一部として助成金を交付しました。

26団体(計734,000円)

(3) 高齢者ふれあい活動支援事業への助成 10団体(1,234,000円)

(4) 社会を明るくする運動への助成 50,000円

(5) ボランティア・当事者連絡会への助成 190,000円

(6) 麻生区交通安全対策協議会への助成 30,000円

7 委員会活動事業

(1) 在宅福祉サービス事業

「みんなでささえあう、暮らしやすいまちづくり」の実現に向け、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、地域が抱える生活課題に対して、地域住民が自ら取り組んでいけるよう、地域のつながりを深め、お互いに顔の見える関係を築き、ささえあい、助け合うことができる地域力の向上を目指して事業を実施しました。

ア 在宅福祉サービス委員会の開催 4回(6月21日、9月1日、12月7日、3月8日)

イ 身につけよう!災害に備えての基本的知識講演会(10月20日 対面方式で開催)

ウ 委員会研修 1回(2月14日)

(2) 広報啓発事業(再掲)

区民へ地域福祉の広報啓発を図り、福祉活動への積極的な参加を呼びかけました。

(3) 子育て支援事業

子育てにおける悩みや課題に対し、アドバイスをを行う講座や講演会を開催するとともに、地域における子育て中の親・子を支援する体制づくりなどについて、子育て支援委員会で協議・検討を行いました。

ア 子育て支援委員会の開催

4回(6月10日、9月2日、11月29日、2月3日)

イ 子育て関連グループ交流会の開催

1回(10月24日)

- ウ 「ペアレントトレーニング『見直してみよう～うちの子って…～』
4回（11月18日、12月16日、1月27日、2月10日）
- エ 「ペアレントトレーニング」参加者交流会
1回（7月6日）
- オ 子育て支援講演会の開催
1回（2月20日）
- カ あさお子育てフェスタへの参加（パネル展示）
1回（9月17日）

8 共同募金事業

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会の実施する共同募金運動への協力

(2) 共同募金の配分金事業の実施

ア 年末たすけあい配分事業

年末たすけあい運動により寄せられた募金の配分について、区社協に配分委員会を設置して、支援を必要とする高齢者世帯及び障害者世帯を対象に、申請に基づいて見舞金を配布しました。

配分世帯 374世帯 配分実績額 1,870,000円

イ あさおオモチャとしょかん運営事業

障害を持つ子ども、持たない子ども、おもちゃを通じてともに遊び、豊かに育つことを目的に運営を行いました。

開館回数 36回

利用者数 438人

運営ボランティア数 延べ204人

次のウ～コは、財源の一部について共同募金配分金を受けて行いました。

ウ ボランティア・当事者連絡会への支援（活動育成費の交付）（再掲）

エ 助成事業（再掲）

小地域福祉活動の担い手である地区社協に対し、育成交付金として交付し、継続的な支援を行いました。（共同募金配分金から、麻生東地区社協へ260,000円、柿生地区社協へ440,000円）

オ 区社協運営事業（再掲）

カ 在宅福祉サービス事業（再掲）

キ ボランティア活動振興事業（再掲）

ク 広報啓発事業（再掲）

ケ 子育て支援事業（再掲）

コ 移送サービス事業（再掲）

9 福祉パル管理運営事業

川崎市から受託した活動拠点「福祉パルあさお」の管理運営を行いました。

今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、コロナ禍における川崎市行政運営方針に基づいて開館しました。

(1) 研修室、フリースペースの貸出

ア 大研修室利用状況	503件 (6,450人)	※前年度 452件 (5,018人)
イ 小研修室利用状況	243件 (1,308人)	※前年度 218件 (1,021人)
ウ フリースペース利用状況	456件 (1,754人)	※前年度 385件 (1,366人)

(2) フリースペースのパネル展示・掲示スペース貸出 (件数)

60件 (5団体)

10 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯で経済的問題を抱える世帯に対し、各種資金の申込みを受付けるとともに、借受世帯への償還などにかかわる相談支援を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付の相談・申請対応を行い、令和4年9月30日申請の受付を終了しました。

(1) 相談件数 2,401件 (通常貸付 1,435件、特例貸付 966件)

(2) 新規相談件数 123件 (通常貸付)

(3) 貸付申請件数 20件 *通常貸付
※要保護世帯向け不動産担保型生活福祉資金
概算調査依頼 1件

(4) 新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金特例貸付 申請件数 208件

(5) 事務管理終了

償還完了	総合【4】 教育【2】 緊急小口【1】 福祉資金【2】 不動産担保【1】	10件
------	---	-----

(6) 貸付調査委員会の実施

1回 (7月8日)

11 ボランティア活動振興事業

区民の福祉についての高揚と区内ボランティア活動の効果的な振興を図ることを目的とし、各種事業を実施しました。

(1) ボランティア活動振興センター運営委員会の開催

3回 (6月17日、12月20日、3月9日)

(2) 学生のための夏休み福祉・ボランティア体験学習「チャレボラ2022」

(市社協・各区社協等との共催事業)

- ① 高齢者施設でボランティア！音楽を通じて高齢者と交流しよう！
7月29日、30日
- ② 高齢者施設でボランティア！高齢者とオンライン交流しよう！
7月27日、28日
- ③ 保育園でボランティアしよう！
8月4日、5日
- ④ 作業所でハーブティー（レモングラス）を収穫しよう！
8月2日

(3) ボランティア講座の開催

『食』を通じた子どもの居場所づくり

2回（2月1日、2月8日）

- ① 子ども食堂ってどんなところ？／麻生区にある子ども食堂を知ろう
- ② 麻生区にある子ども食堂に参加してみよう！

(4) ボランティア専門講座（田園調布学園大学主催）への協力

田園調布学園大学が開催するボランティア専門講座の広報について協力しました。

(5) ボランティアイベントの企画を検討

ボランティアイベントについて、相談窓口設置機関の交流会に参加し意見交換を行いました。

(6) ボランティアコーディネート委員会の開催

ボランティアコーディネート体制の充実のため、ボランティア活動振興センター運営委員会の中に、「ボランティアコーディネート委員会」を設置し委員会を開催しました。

10回（4月5日、6月7日、7月5日、9月6日、10月4日、11月1日、
12月6日、1月10日、2月7日、3月7日）

(7) ボランティア受け入れ担当者向け講座

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(8) ボランティア相談事業（来所・電話・相談コーナーを含む）

令和4年度 ボランティアの依頼状況・調整状況

- ① ボランティア依頼（ボランティアしてほしい） 11件
- ② ボランティア活動希望（ボランティアしたい） 18件

(9) ボランティア相談コーナーの開設、再開に向けた検討

毎月第1、第2、第3火曜日の午後1時から3時の間、月に3回、そのうち、第1火曜日は、麻生区役所ロビーにてボランティア相談コーナーを実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

(10) ボランティア受入状況などの現状把握するための取組

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(1 1) 広報紙「ぼらぼら」・情報紙「ぼらぼら広場」の発行

ア 広報紙「ぼらぼら」の発行

広報紙ほほえみの紙面を活用して発行しました。 2回（11月、2月）

イ 情報紙「ぼらぼら広場」の発行

新型コロナウイルス感染症拡大により福祉施設等のボランティア受入募集が少ないため、3月以降は不定期の発行としました。

号数	掲載内容
号外（10月発行）	エコキャップ運動の特集
104号（2月発行）	掲載情報10件

(1 2) 福祉教育推進委員会の開催

1回（3月22日）

(1 3) 福祉学習申込みに関する相談・紹介・調整

①申込件数 25件（延べ件数）

内訳：小学校25件

本申込を通じて話を聞いた方・体験した方 1,710人（延べ人数）

②内 容 障害当事者等の講演・講習、車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、講師派遣及び体験受入団体の調整、物品貸出 等

ア 小学校・中学校・高校の先生との福祉教育についての懇談会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

イ 福祉教育推進委員会委員研修

1回（3月22日）

ウ 福祉教育に関わる広報啓発

広報啓発委員会と連携し、こども新聞、体験学習用DVDを用いて福祉啓発を行いました。

(1 4) 災害ボランティアについての取り組みの推進

ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催

※麻生区総合防災訓練があさお福祉まつり前日と重なり不参加となったため未開催。

(1 5) 相談窓口設置機関（麻生市民館・やまゆり・社協）の連携強化

平成28年度に麻生区役所（麻生市民館）、NPO法人あさお市民活動サポートセンター（やまゆり）と麻生区社会福祉協議会が協力して、区内で活動している市民活動団体の情報を一元化し立ち上げた麻生区市民活動団体検索サイトの広報、周知に協力しました。

また、3月8日に交流会を開催し、各団体の紹介、意見交換等を行いました。

1 2 麻生区あんしんセンター事業

麻生区内に在住する判断能力が不十分な認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等の権利擁護を目的として、日常生活自立支援事業の実施及び成年後見制度の利用に向けた相談・支援を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業の実施

日常生活自立支援事業においては、福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス及び書類等預かりサービスを実施しました。福祉サービスの利用料の支払い、生活費の出金など金銭の出し入れの手続き、公共料金や医療費等の支払い手続きを行いました。

- ・日常生活自立支援事業にかかわる相談

相談件数 1,080件（初回相談27件、継続相談1,053件）

- ・サービス契約者数（令和4年度3月末の継続利用者数）

福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス 16名

書類等預かりサービス 4名

(2) 成年後見制度の利用推進

川崎市社会福祉協議会川崎市あんしんセンターでは、川崎市から成年後見支援センター事業を受託し、各区あんしんセンターにおいても成年後見制度利用促進のため、広報や相談・支援を実施しました。

- ・成年後見制度の概要や申立て手続きに関わる相談

相談件数 299件（初回相談124件、継続相談175件）

(3) 関係機関との連携及び連絡調整

行政機関や地域包括支援センター、地域相談支援センターが実施するカンファレンスや麻生区高齢者支援カンファレンス（年12回開催）に出席し、権利擁護支援にかかわる地域連携ネットワークの構築の推進に努めました。

1 3 老人いこいの家運営等事業

麻生区内7館の老人いこいの家の指定管理者として、地域の高齢者が健康で生きがいのある豊かな生活が送れるように、施設（各部屋）の利用をはじめ、教養講座や行事を開催し、高齢者の活動を支援しました。

また、各老人いこいの家の運営委員会と連携し、施設の適正な管理運営を行うとともに、地域福祉活動の拠点としての有効利用に努めました。

(1) 指定管理事業

ア 老人いこいの家の運営委員会の開催

（※印：新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面報告等による開催）

①王禅寺老人いこいの家 2回（7月27日、1月27日）

- ②片平老人いこいの家 2回（7月15日、3月3日）
- ③千代ヶ丘老人いこいの家 1回（3月10日※）
- ④白山老人いこいの家 2回（6月29日、1月31日）
- ⑤麻生老人いこいの家 2回（6月24日、2月24日）
- ⑥岡上老人いこいの家 2回（7月15日※、2月20日）
- ⑦百合丘老人いこいの家 3回（5月25日、7月20日、11月15日）

イ 令和4年度利用状況 開所日数合計2,058日 利用人数合計53,933人

ウ 令和4年度入浴事業利用者の状況 利用者数合計1,661人（2館分）

※千代ヶ丘老人いこいの家については、ボイラー機器故障のため令和5年1月より事業休止

エ 教養の向上及びレクリエーションに関する事業

①教養講座・公開講座 開催回数計656回 参加人数計5,639人

②レクリエーション 開催回数計17回 参加人数計1,229人

オ 多世代交流・地域交流に関する事業 開催回数計17回 参加人数計1,229人

カ 健康づくり・介護予防に関する事業

区役所や地域包括支援センターが実施する事業に協力した。

キ 高齢者の社会参加を促し、高齢者の活躍の場につながる取り組みを推進

ボランティア活動振興センター事業と連携し、高齢者がボランティアに関心を持っていただけるよう、関連リーフレットや活動紹介冊子等を各館に配架・設置した。

ク 消防訓練・避難訓練の実施 実施回数計7回 参加者数計182人

ケ 老人いこいの家管理人研修会の開催

①普通救命講習Ⅰ・救命処置実技（心肺蘇生とAED）：川崎市消防防災公社主催

6回（7月11日、8月1日、9月20日、11月11日、12月12日、1月30日） 計31名

②いこいの家管理人連絡会議

2回（12月2日AM/PM） 計22名

③いこいの家代替臨時職員研修 ※書面による開催 代替臨時職員24名

1回（2月15日）

14 公益事業

川崎市から受託し、市営・民営バスに乗車する「川崎市高齢者フリーパス」を交付及び販売することにより、高齢者の社会活動への参加を促進し、高齢者の福祉の増進を図りました。

交付枚数 計907枚

15 災害活動関連事業

平成29年度の川崎市総合防災訓練（麻生区開催）をきっかけに、行政、市・区社協をメンバーに麻生区災害ボランティアセンター設置運営について検討を重ねました。令和2年度からは、会議名称を「麻生区災害ボランティアに関する連携会議」としてボランティア活動振興セ

ンター内に設置し、災害ボランティアセンターの設置・運営に限定することなく麻生区の災害ボランティアについて、麻生区総合防災訓練での広報啓発に合わせて、広く協議・検討することとなりました

(1) 災害ボランティアについての取り組みの推進（再掲）

- ア 麻生区災害ボランティアに関する連携会議の開催
※麻生区総合防災訓練不参加のため未開催。
- イ 麻生区総合防災訓練への参加
※麻生区総合防災訓練があさお福祉まつり前日と重なったため不参加。

(2) 災害対策・事業関連

- ア 事業継続計画を定期的に見直し、更新しました。
- イ 在宅福祉サービス委員会では今年度のテーマを「災害」とし、講演会や委員研修（拡大開催）を実施しました。（再掲）

(3) 災害発生時に必要な物品等の整備

アルファ米等、災害備蓄食品の保管・管理を行いました。

16 団体事務

関係団体事務局として、団体運営・活動に支援協力しました。

(1) 神奈川県共同募金会川崎市麻生区支会への協力

(2) 麻生区民生委員児童委員協議会

(3) 関係団体の事務協力

(4) 麻生区賀詞交歓会の共催

令和5年麻生区賀詞交歓会の開催（1月6日）

17 その他

その他、地域福祉推進に必要な事業を実施しました。